

新型コロナウイルス禍における単位スポーツ少年団の実態調査（まとめ）

1. 調査目的：
 - (1) 2020年以降の新型コロナウイルス禍(コロナ禍)における単位スポーツ少年団(単位団)の活動状況と変化を明らかにする
 - (2) 単位団の活動実態(状況と変化)から課題を見出し、日本スポーツ少年団(日本スポーツ協会)として今後どのような支援ができるか検討する材料とする
2. 調査対象：全国の単位スポーツ少年団 20,255 団
3. 調査期間：2022年7月5日～8月1日
4. 調査方法：Google Forms を用いた Web アンケート調査
5. 調査内容：
 - (1) 対象者の基本特性
地域ブロック、活動種目、回答者、団員数、指導者数、スタッフ数、団員の主な年代、活動場所
 - (2) コロナ禍における活動実施状況
活動実施状況、活動を中止した決め手、活動を再開した決め手
 - (3) コロナ禍後の変化
プラスの変化、マイナスの変化、活動工夫、ガイドラインの認知
 - (4) コロナ禍を通しての単位団運営者の声
困っていること、団員の減少理由、登録を継続している理由、自由コメント、ヒアリング調査への協力有無
6. 調査結果・考察〔回答単位団 6,078 団（回答率 30.0%）〕
 - コロナ禍に「活動を中止した時期があった」単位団および「活動を中止した」単位団は、「2021年上期」に増加、その後は減少しており、特に「近畿ブロック」の「人数の多い」単位団に減少傾向が多くみられた。地域ブロックに差があったことから、今後それぞれの取組を検証する必要がある。
 - 活動の中止、再開の決め手は、「市区町村スポーツ少年団の連絡」が最も多く、組織的な厳しい制限に単位団が従い、活動を自粛していたと考えられる。
 - コロナ禍であっても様々な工夫をしながら活動をしており、プラスの変化もあったことから、どのような工夫をして活動を継続し、それによってどのような変化があったかを共有することで、他の単位団の参考になると考えられる。
 - スポーツ少年団の単位団の活動（および大会、イベント）の実施（再開）の明確な基準がなかったことから、活動を再開してよいのか困惑した単位団が多かったことが明らかとなった。日本スポーツ少年団として再開の基準を作成・周知することとあわせて、日本スポーツ少年団が事業継続計画〔Business Continuity Plan (BCP)〕による早期活動再開に向けた支援策を検討することの必要性が示唆された。

新型コロナウイルス禍における 単位スポーツ少年団の実態調査報告書

2022年11月

公益財団法人日本スポーツ協会日本スポーツ少年団

目次

- 1) 調査概要 03
- 2) 結果 06
 - 2-1) 対象団の基本特性 06
 - 2-2) コロナ禍における活動実施の状況 08
 - 2-3) コロナ禍後の変化 30
 - 2-4) コロナ禍を通しての単位団運営者の声 32
- 3) まとめ 35

1) 調査概要

▶ 調査の目的

2020年以降の新型コロナウイルス禍（コロナ禍）における単位団の活動状況と変化を明らかにする。

単位団の活動実態（状況と変化）から課題を見出し、日本スポーツ少年団（日本スポーツ協会）として今後どのように支援ができるのか検討する材料とする。

1) 調査概要

- ▶対象者 : 全国のスポーツ少年団 (20,255団)
- ▶調査期間 : 2022年7月5日～8月1日
- ▶調査方法 : Google Formsを用いたwebでのアンケート調査
- ▶調査内容 :
 - ①対象団の基本特性
地域ブロック、活動種目、回答者、団員数、指導者数、スタッフ数、団員の主な年代（複数回答）、活動場所（複数回答）
 - ②コロナ禍における活動実施の状況
活動実施状況、活動を中止した決め手、活動を再開した決め手
 - ③コロナ禍後の変化
プラスの変化、マイナスの変化、活動工夫、ガイドラインの認知
 - ④コロナ禍を通しての単位団運営者の声
困っていること、団員の減少理由、登録を継続している理由、自由コメント、ヒアリング調査への協力有無

1) 調査概要

▶実施体制

本調査は、日本スポーツ協会日本スポーツ少年団にて活動開発部会が担当して実施した。

なお、集計と分析は、久留米大学人間健康学部スポーツ経営学研究室（准教授 行實鉄平、学生 尾崎蓮華）にて行った。

2) 結果 2-1)対象者の基本特性

▶分析対象団：調査回答団 6,078団（回答率：30.0%）

表1 スポーツ少年団の登録数と調査回答団数

地域ブロック	登録数		回答数	
	N	%	n	%
北海道	1778	6.2	263	4.3
東北	5000	17.5	954	15.7
関東	6042	21.1	1375	22.6
北信越	2235	7.8	646	10.6
中部	2885	10.1	451	7.4
近畿	2596	9.1	595	9.8
中国	2542	8.9	523	8.6
四国	1431	5.0	349	5.7
九州	4073	14.3	922	15.2
合計	28582	100.0	6078	100.0

表2 対象団の基本特性(n=6078)

指導者人数	n	%	所属団人数	n	%	主な年代（複数回答）	n	%
5人以下	4843	79.7	~10人	926	15.2	U6(6歳以下：幼児・未就学児)	637	10.5
6人以上	1235	20.3	11~30人	4049	66.6	U12(12歳以下：小学生)	5698	93.7
スタッフ人数	n	%	31人以上	1103	18.1	U15(15歳以下：中学生)	1068	17.6
5人以下	5127	84.4	回答者（複数回答）	n	%	U18(18歳以下：高校生)	313	5.1
6人以上	951	15.6	代表者	3357	55.2	18(18歳：大学生)以上	254	4.2
活動種目	n	%	事務担当者	2344	38.6			
団体種目	4318	71.0	指導者	1774	29.2			
個人種目	1647	27.1	運営スタッフ	548	9.0			
複合	113	1.9	リーダー	61	1.0			
			保護者	66	1.1			

*登録数は令和3年度の数値

2) 結果 2-1)対象者の基本特性

表3 活動場所（複数回答）

項目	n	%
学校の施設（学校の体育館や校庭等）	5018	82.6
学校以外の公営施設（市民体育館、市民グラウンド、自治会施設等）	2937	48.3
民営施設（財団法人やNPO法人、クラブ、個人が所有・運営する施設等）	287	4.7
商業施設（フィットネスクラブや企業施設、貸会議室等）	60	1.0
特に決まっていない（予約が空いている場所）	68	1.1

n=6078

2) 結果 2-2) コロナ禍における活動実施の状況

表4 コロナ禍における活動実施状況

項目	①2020年上期		②2020年下期		③2021年上期		④2021年下期		⑤2022年上期	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
活動した	447	7.4	1075	17.7	692	11.4	1151	18.9	2383	39.2
活動中止した時期があった	4365	71.8	4287	70.5	4798	78.9	4569	75.2	3494	57.5
活動中止した	991	16.3	456	7.5	498	8.2	287	4.7	181	3.0
わからない・その他	275	4.5	260	4.3	90	1.5	71	1.2	20	0.3

N=6078

2) 結果 2-2) コロナ禍における活動実施の状況

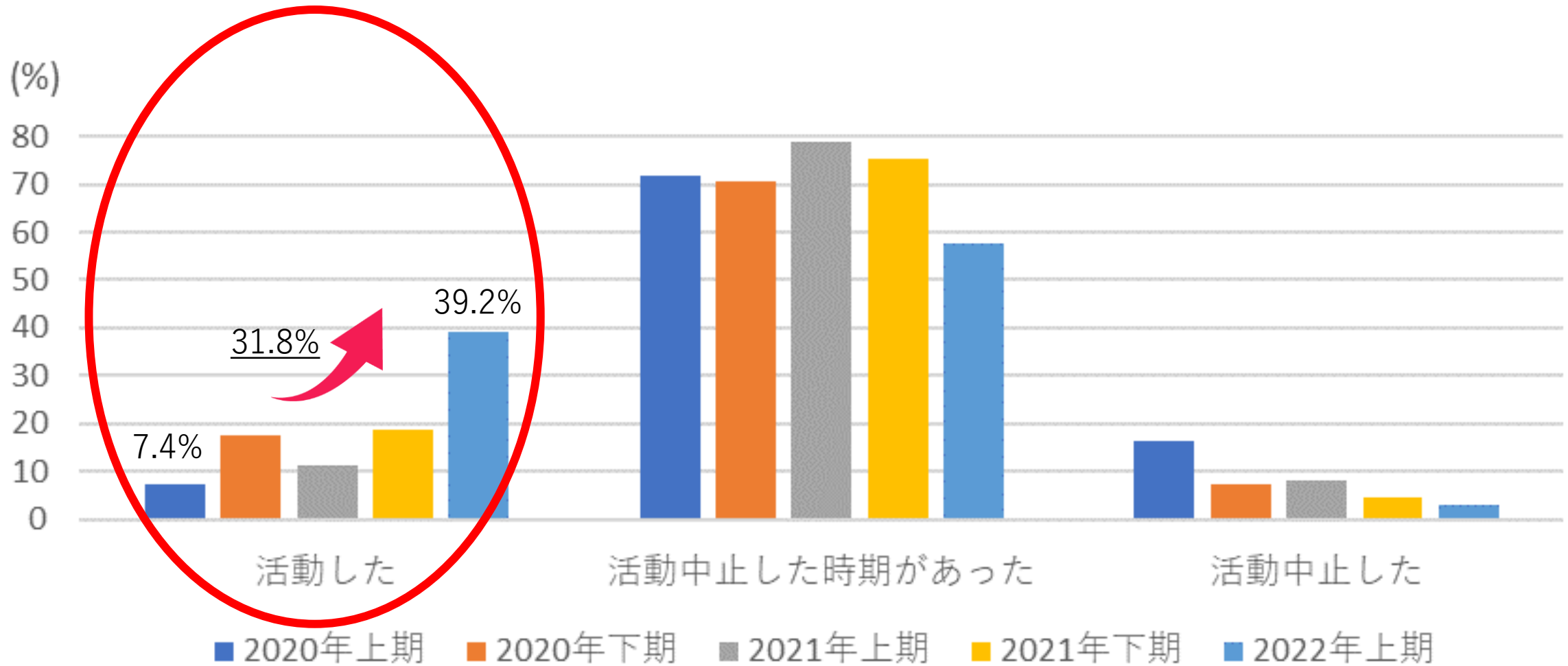


図1 コロナ禍における活動の実施状況

2) 結果 2-2) コロナ禍における活動実施の状況

▶ 「活動した」団の状況（地域ブロック別）

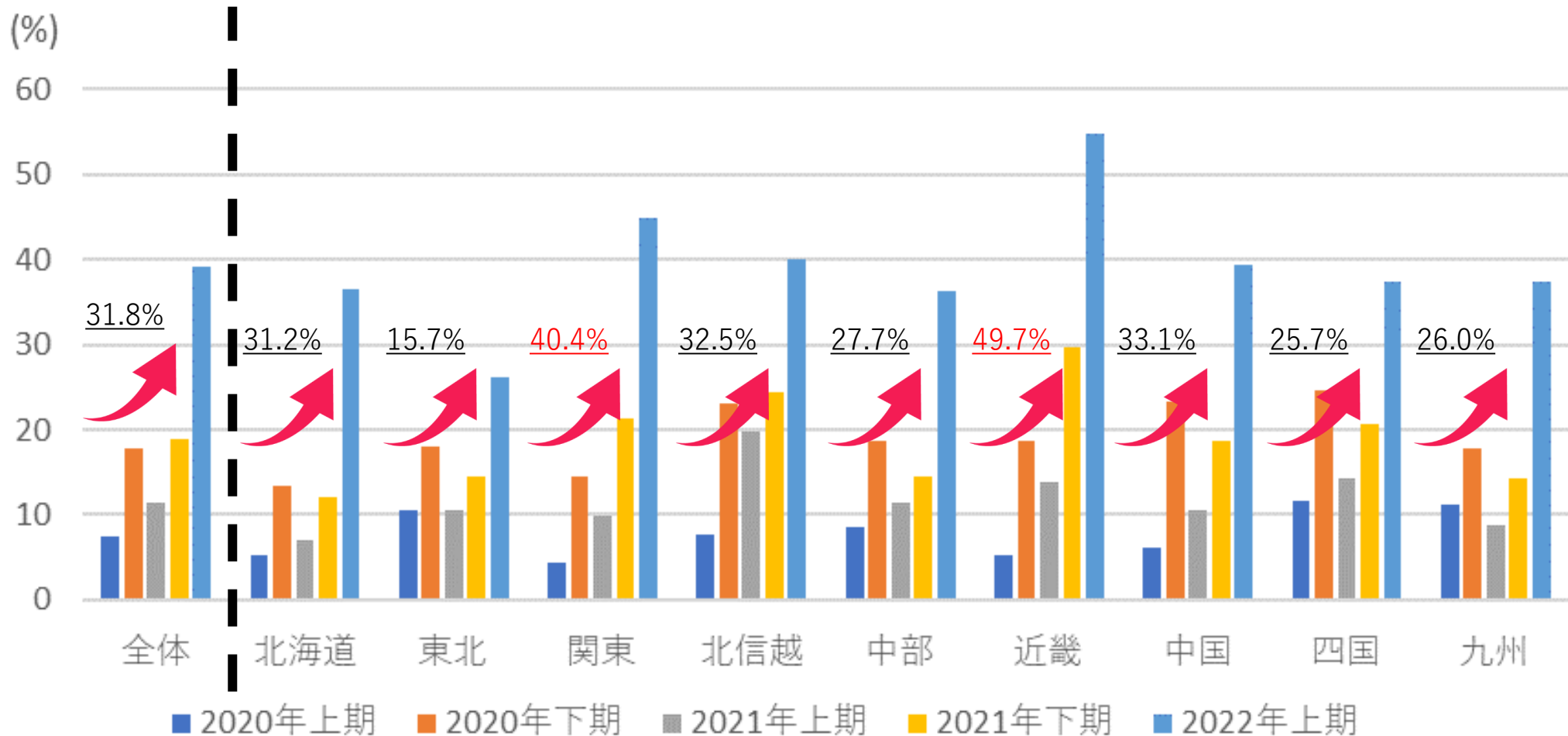


図2 活動した団の状況（地域ブロック別）

2) 結果 2-2) コロナ禍における活動実施の状況

▶ 「活動した」団の状況（種目別）

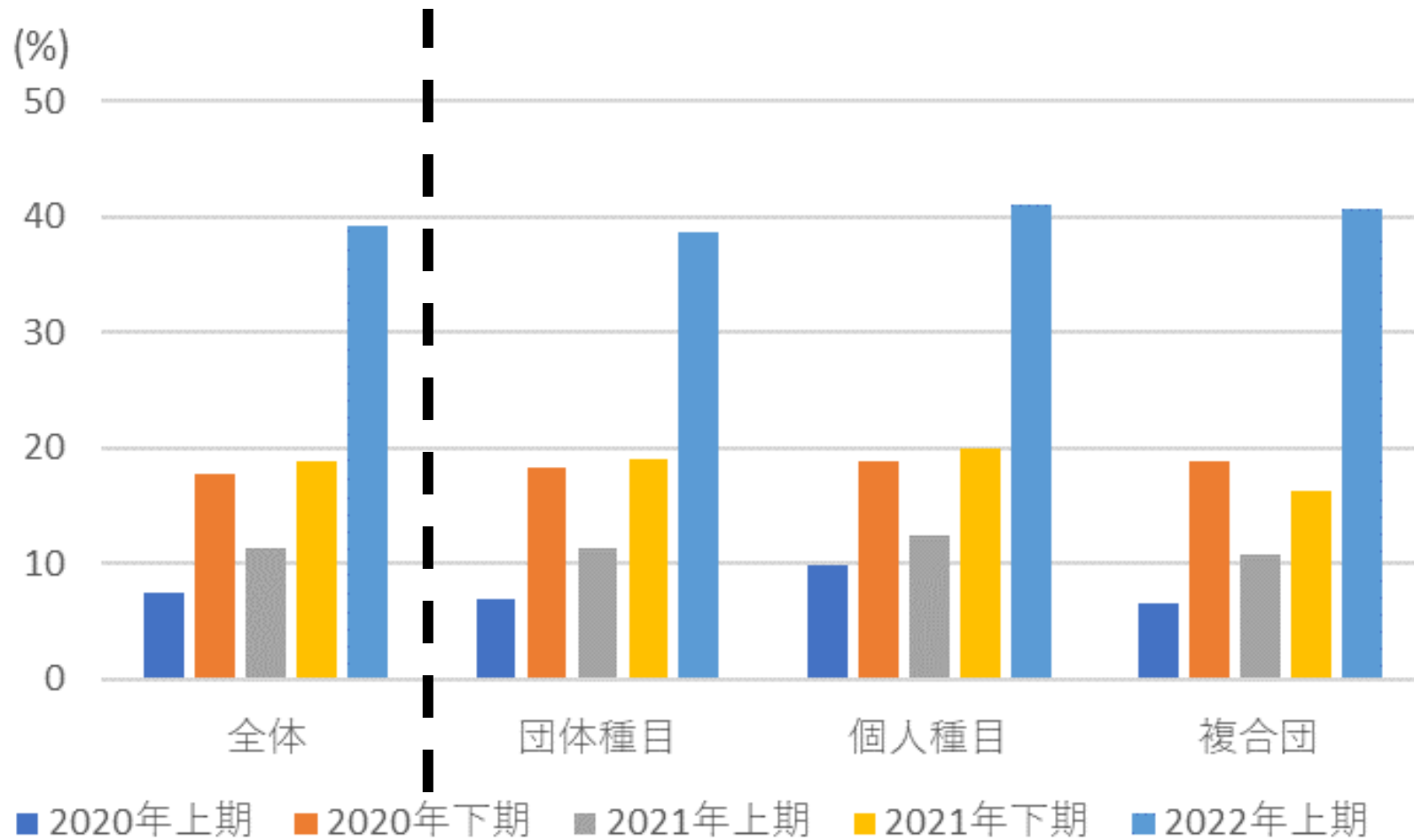


図3 活動した団の状況（種目別）

2) 結果 2-2) コロナ禍における活動実施の状況

▶ 「活動した」団の状況（団員人数別）

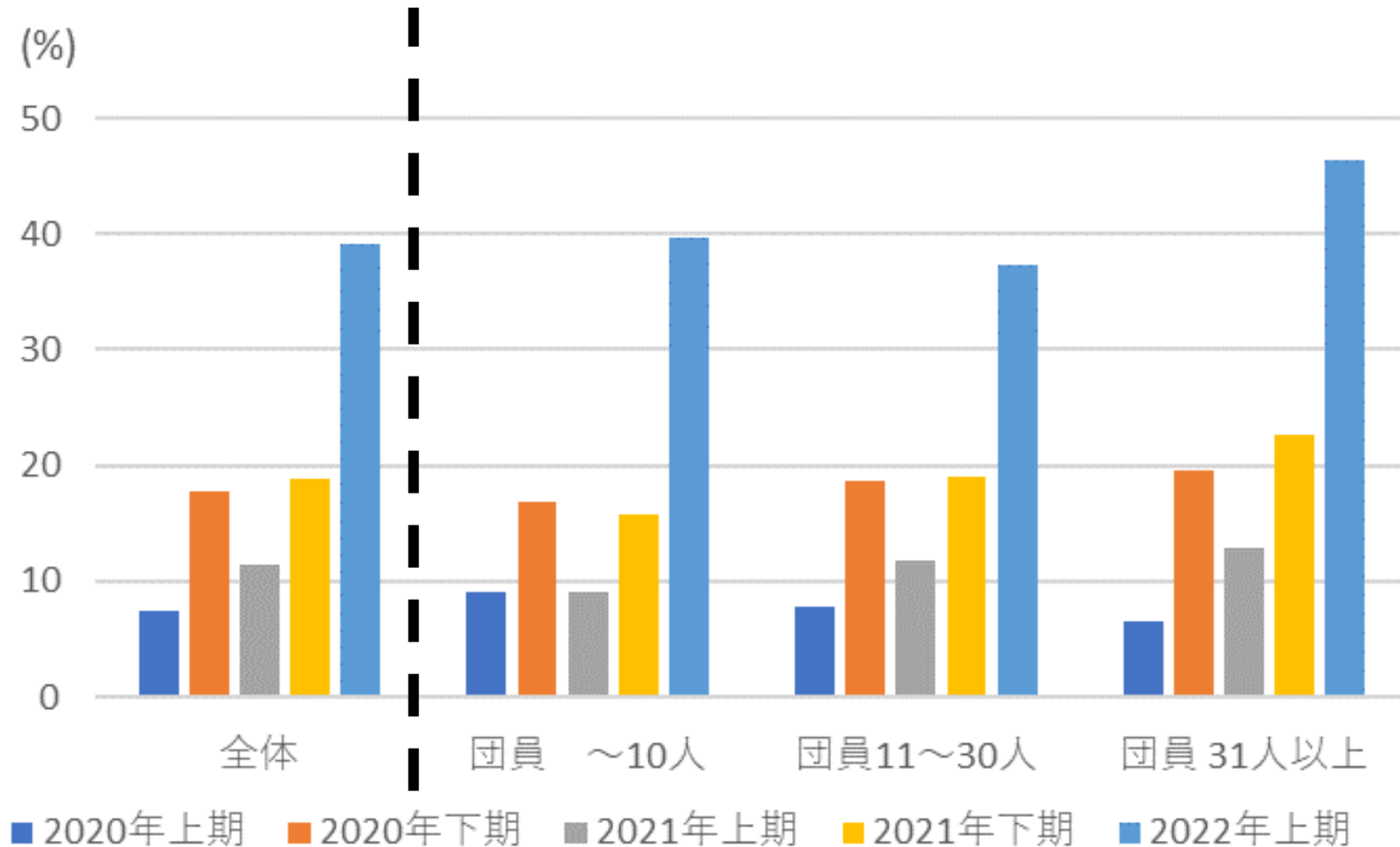


図4 活動した団の状況（団員人数別）

2) 結果 2-2) コロナ禍における活動実施の状況

▶ 「活動した」団の状況（指導者人数別）

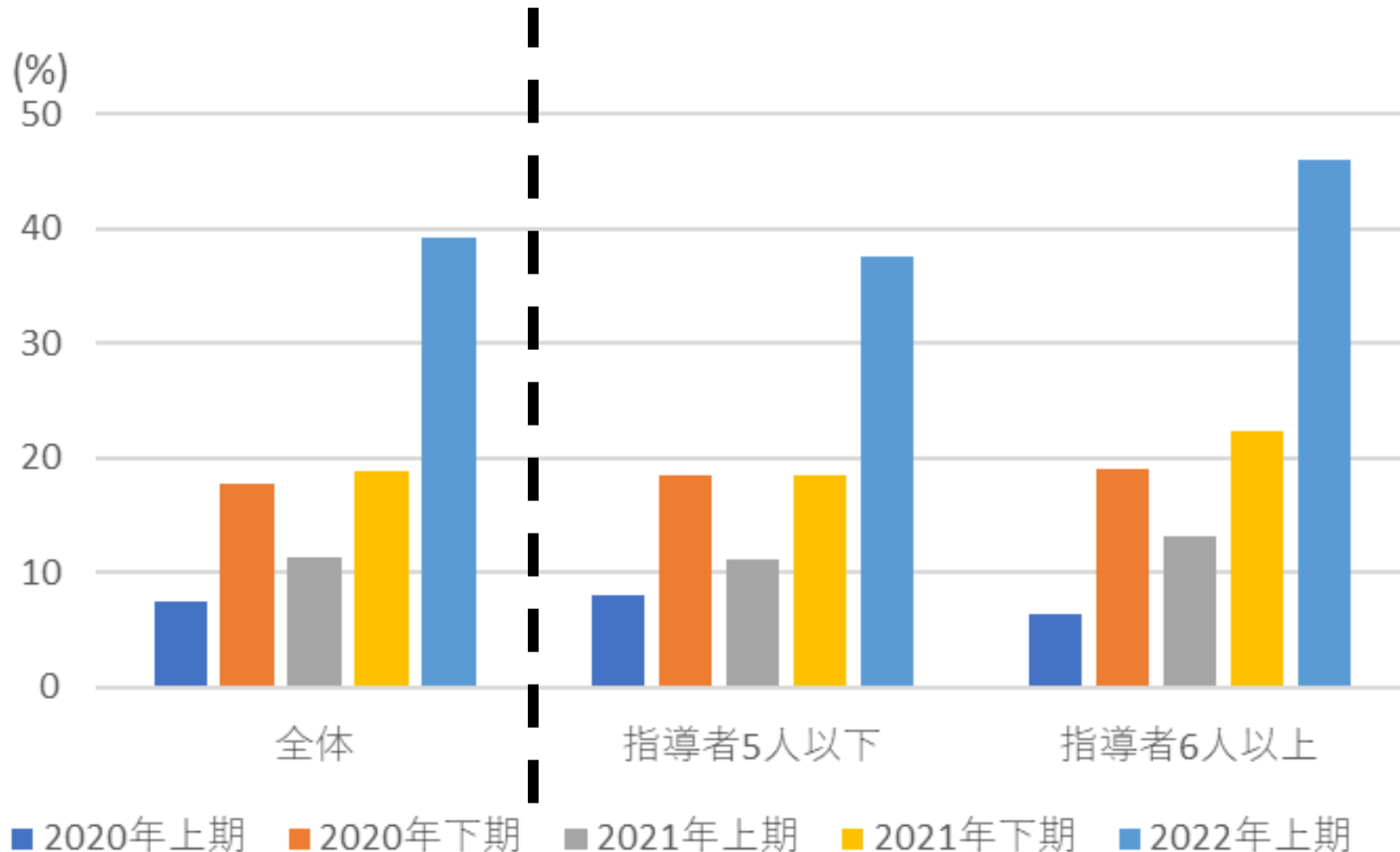


図5 活動した団の状況（指導者人数別）

2) 結果 2-2) コロナ禍における活動実施の状況

▶ 「活動した」団の状況（スタッフ人数別）

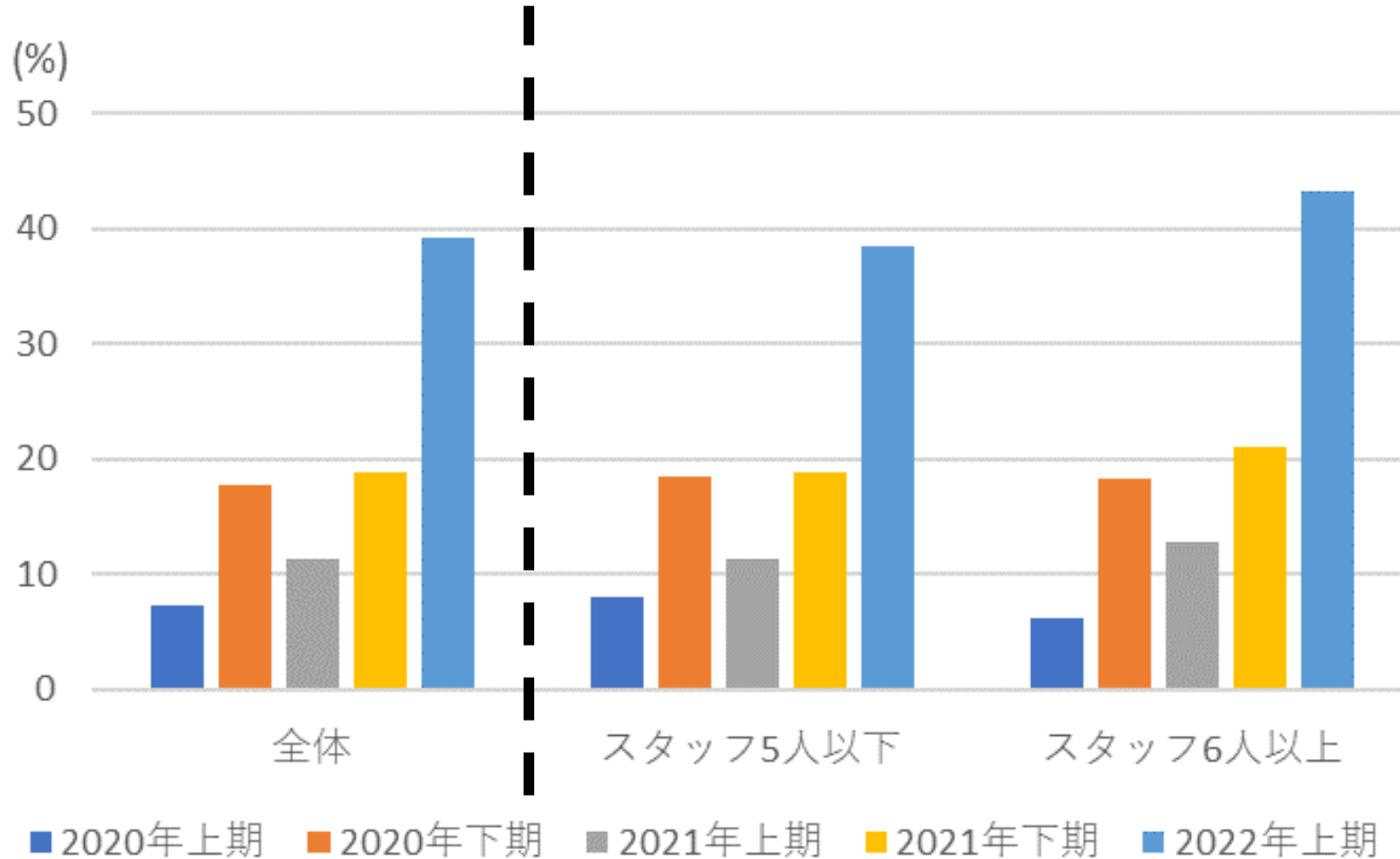


図6 活動した団の状況（スタッフ人数別）

2) 結果 2-2) コロナ禍における活動実施の状況

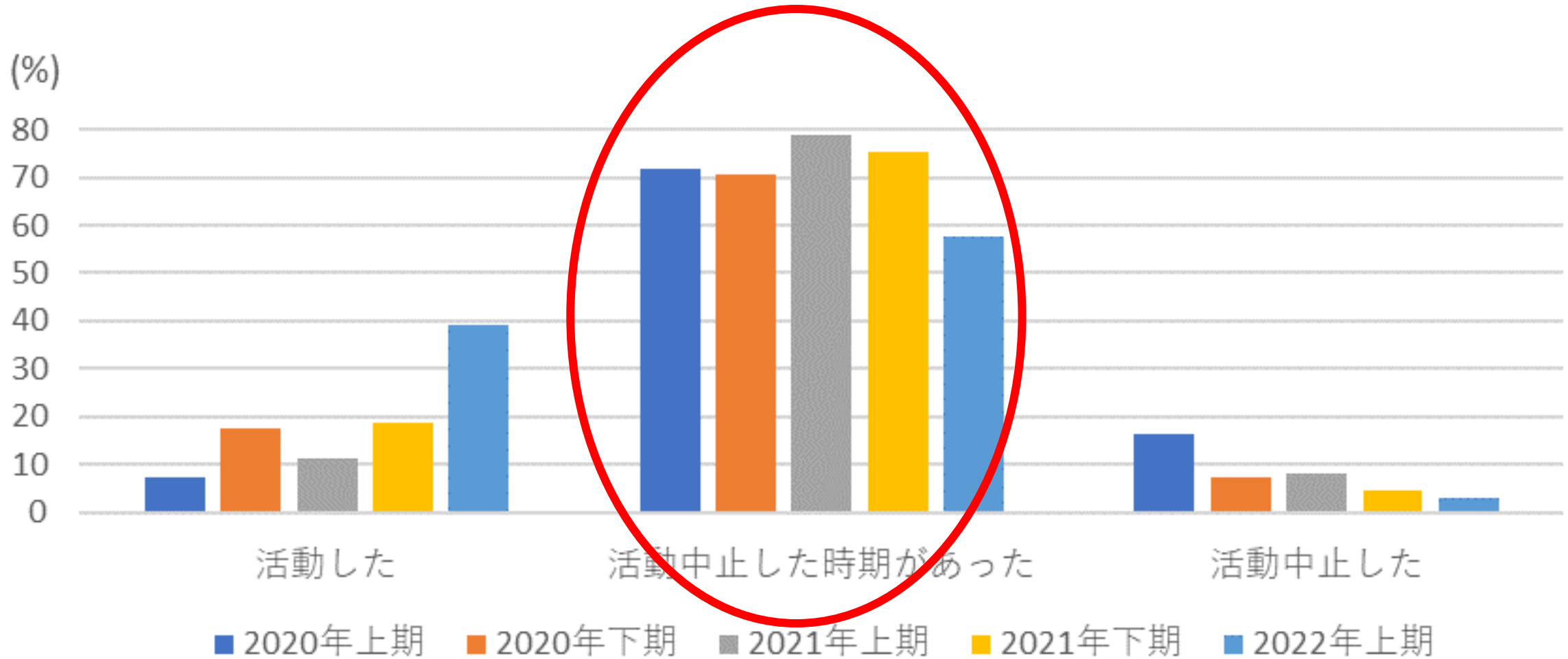


図1 コロナ禍における活動の実施状況

2) 結果 2-2) コロナ禍における活動実施の状況

▶ 「活動中止した時期があった」団の状況（中止判断の決め手）

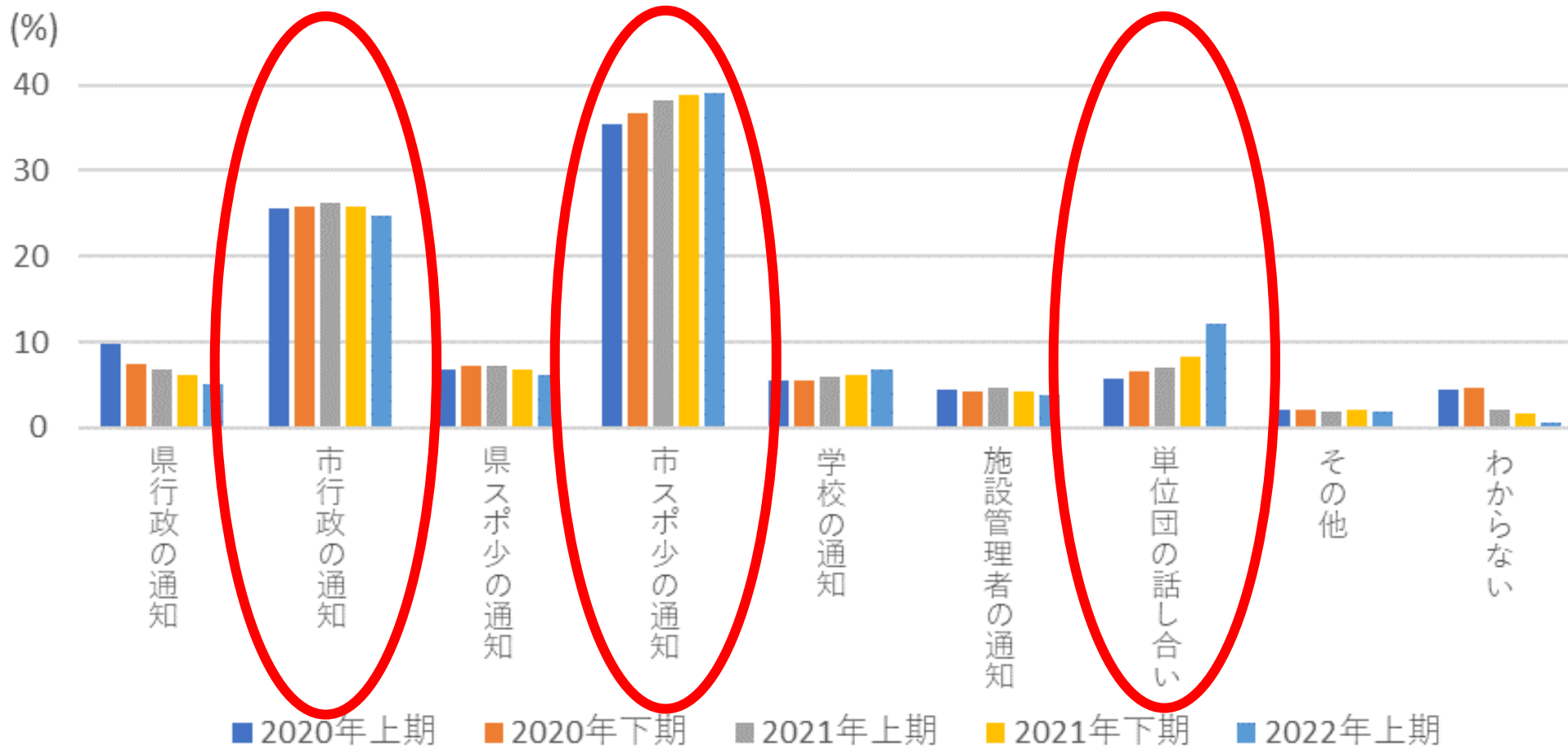


図7 活動を「中止」した際に最も重視した決め手（理由）

2) 結果 2-2) コロナ禍における活動実施の状況

- ▶ 「活動中止した時期があった」団の状況（中止判断の決め手）
市行政の通知（ブロック別）

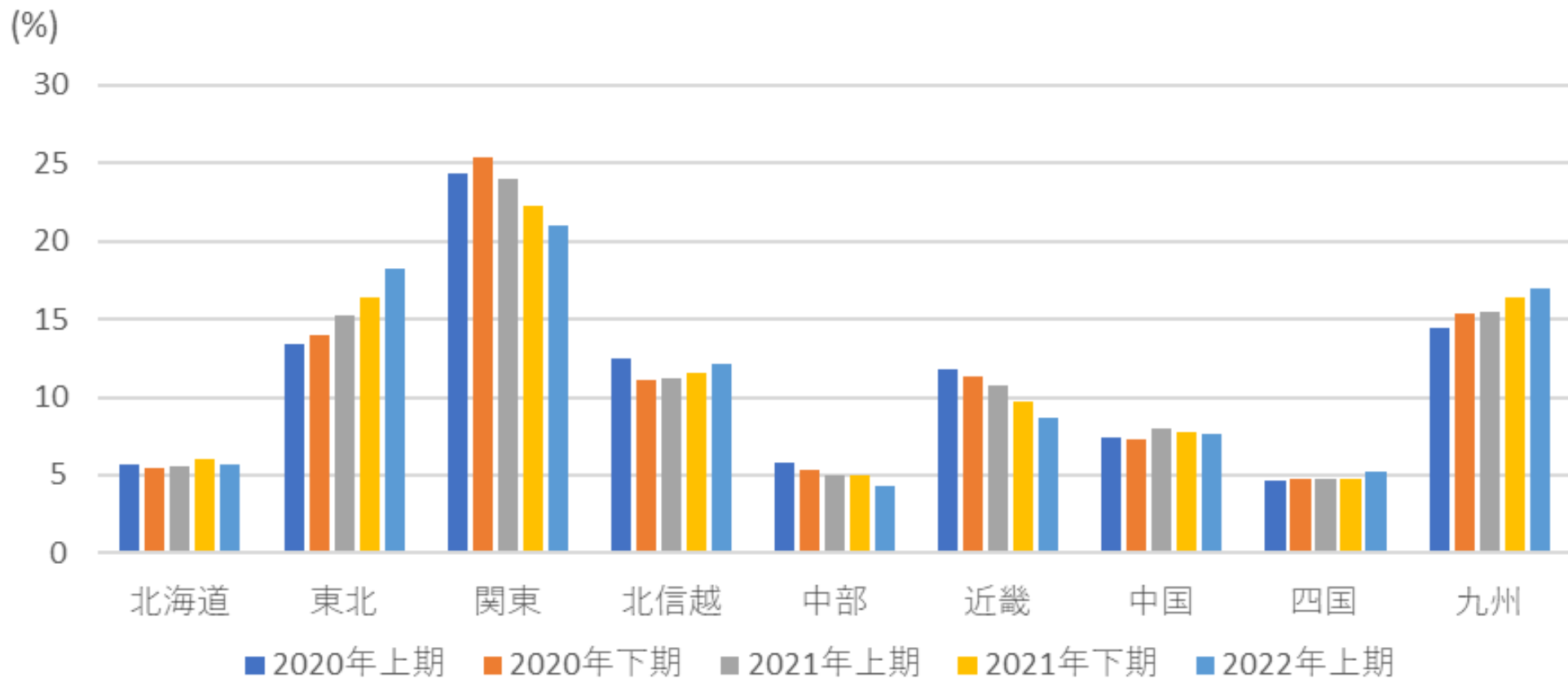


図8 活動中止判断が市行政の通知であった単位団（地域ブロック別）

2) 結果 2-2) コロナ禍における活動実施の状況

- ▶ 「活動中止した時期があった」団の状況（中止判断の決め手）
市スポ少の通知（ブロック別）

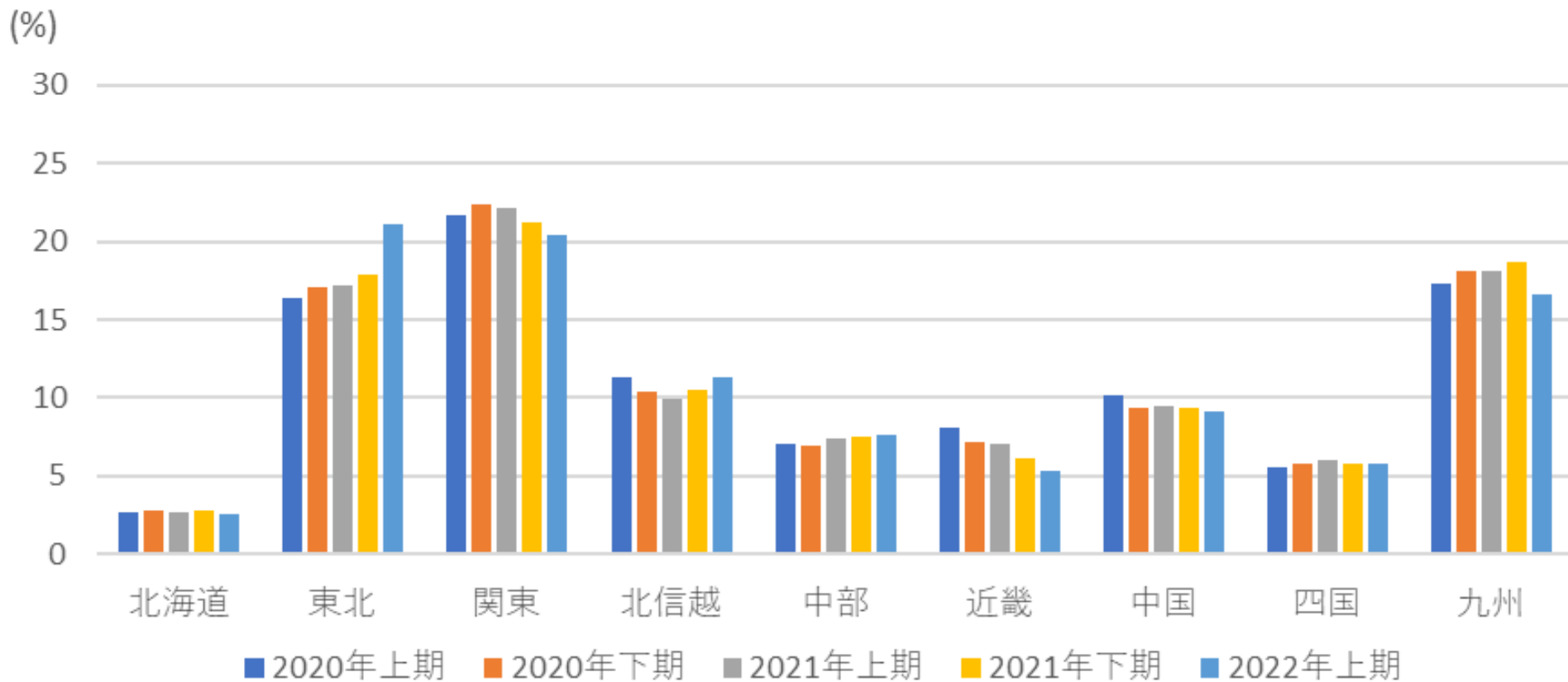


図9 活動中止判断が市スポ少の通知であった単位団（地域ブロック別）

2) 結果 2-2) コロナ禍における活動実施の状況

- ▶ 「活動中止した時期があった」団の状況（中止判断の決め手）
単位団の話し合い（ブロック別）

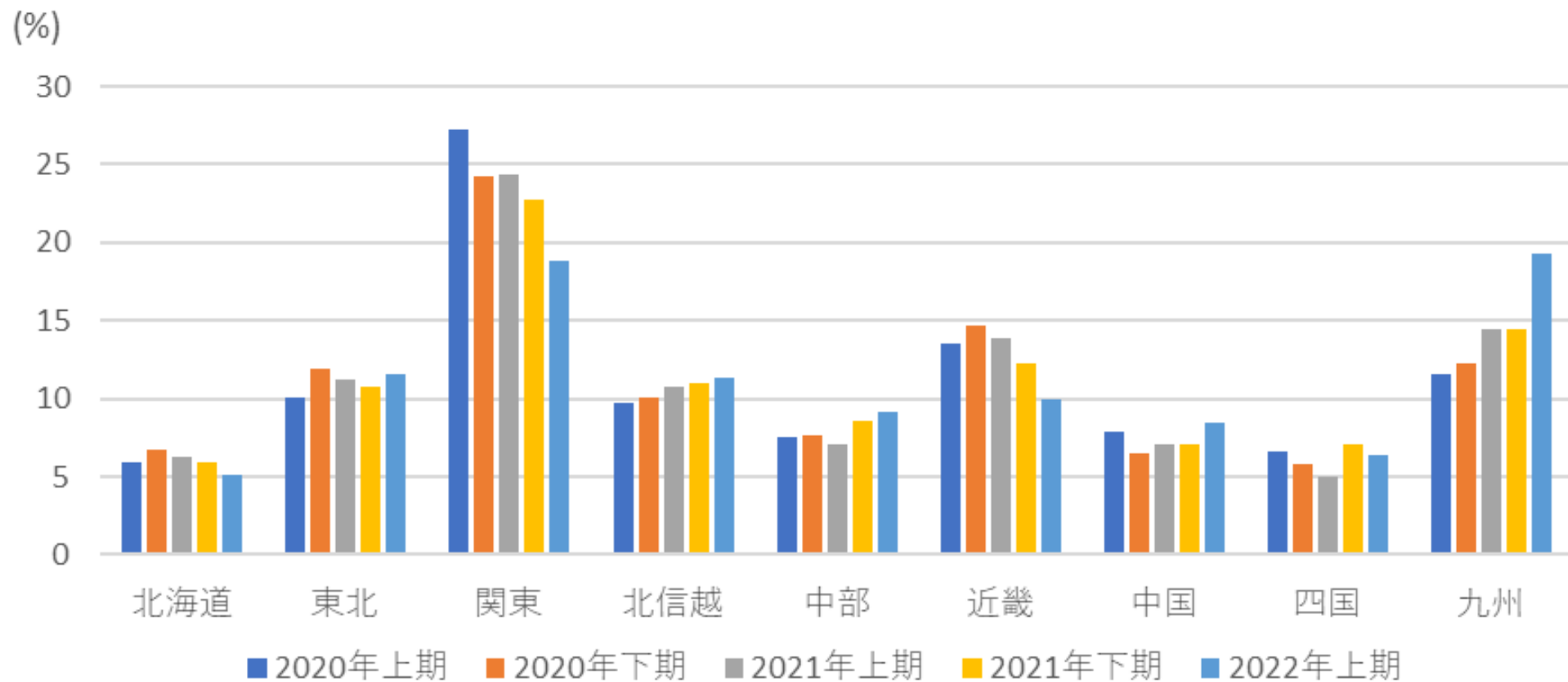


図10 活動中止判断が単位団での話し合いであった団（地域ブロック別）

2) 結果 2-2) コロナ禍における活動実施の状況

▶ 「活動中止した時期があった」団の状況（再開判断の決め手）

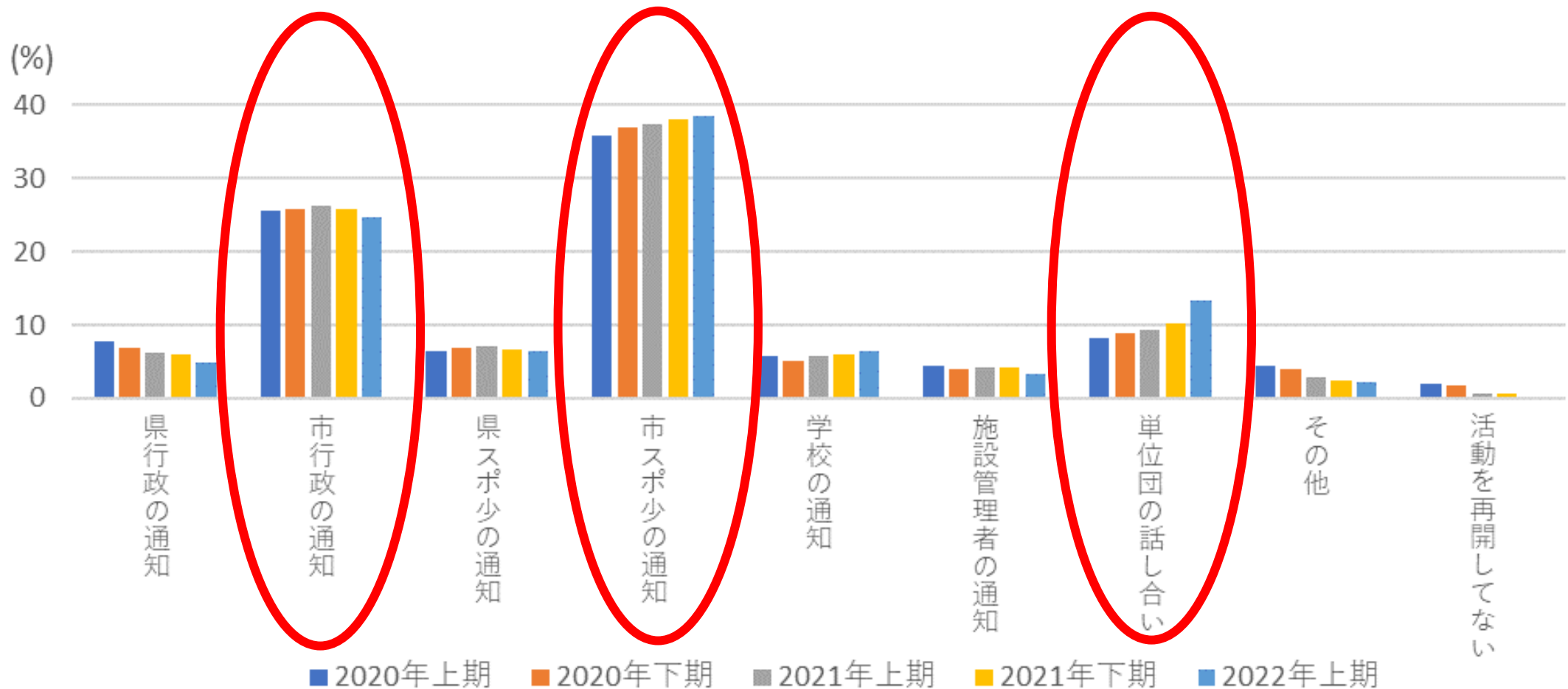


図11 活動を再開した際に最も重視した決め手（理由）

2) 結果 2-2) コロナ禍における活動実施の状況

- ▶ 「活動中止した時期があった」団の状況（再開判断の決め手）
市行政の通知（地域ブロック別）

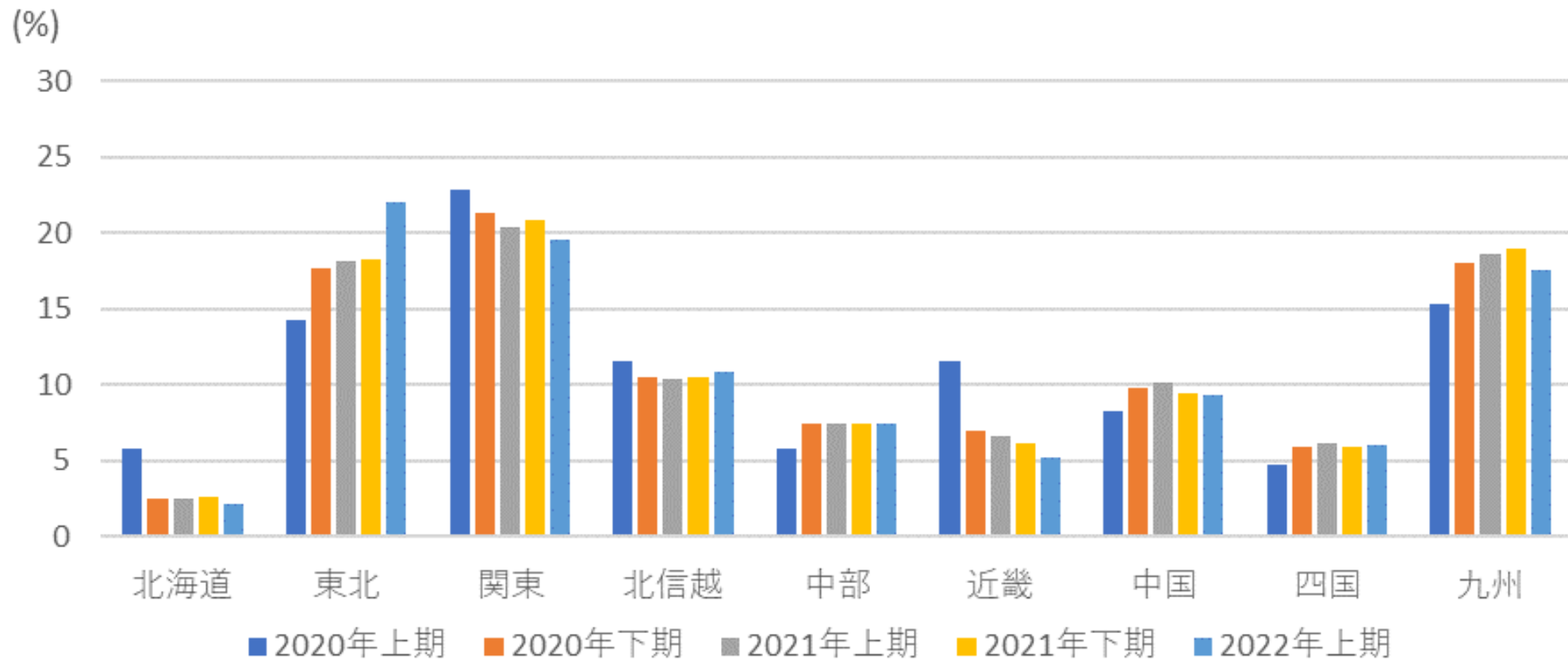


図12 活動再開判断が市行政の通知であった単位団（地域ブロック別）

2) 結果 2-2) コロナ禍における活動実施の状況

- ▶ 「活動中止した時期があった」団の状況（再開判断の決め手）
市スポ少の通知（地域ブロック別）

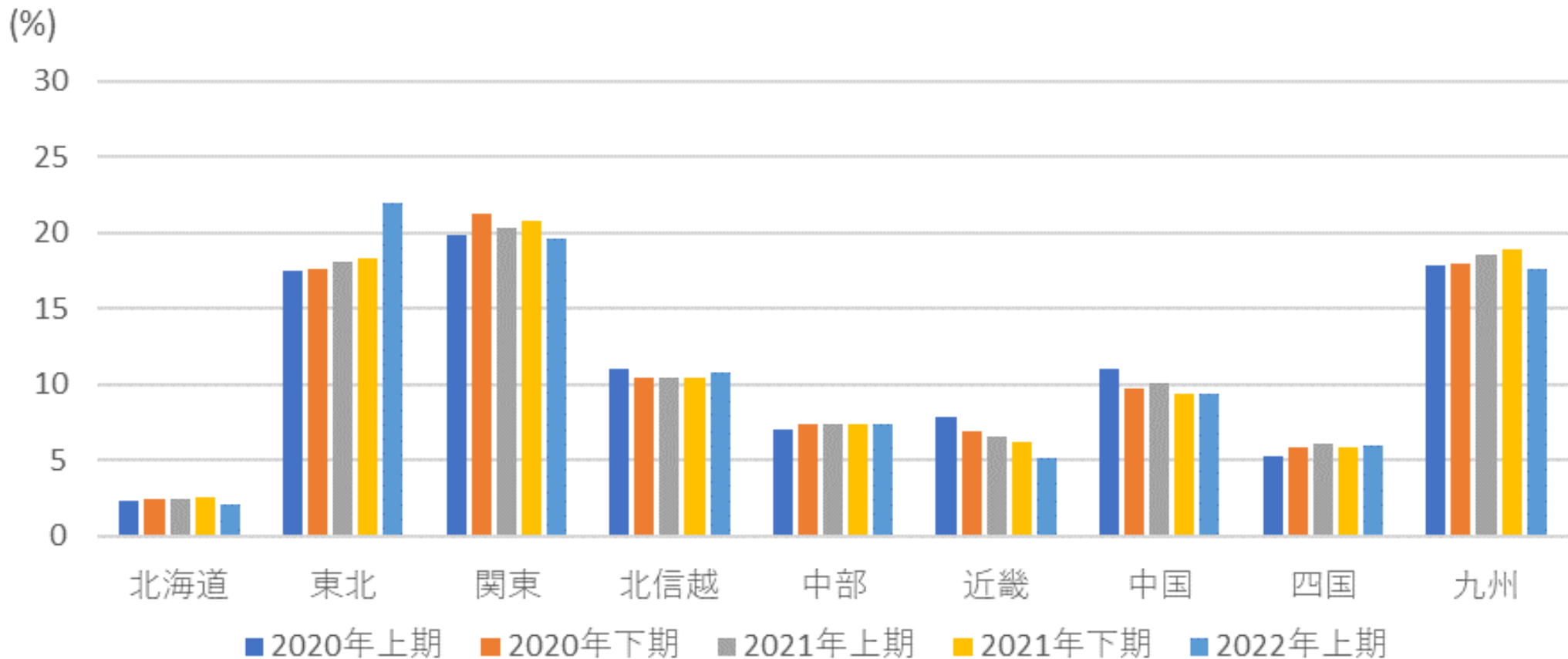


図13 活動再開判断が市スポ少の通知であった単位団（地域ブロック別）

2) 結果 2-2) コロナ禍における活動実施の状況

- ▶ 「活動中止した時期があった」団の状況（再開判断の決め手）
単位団での話し合い（地域ブロック別）

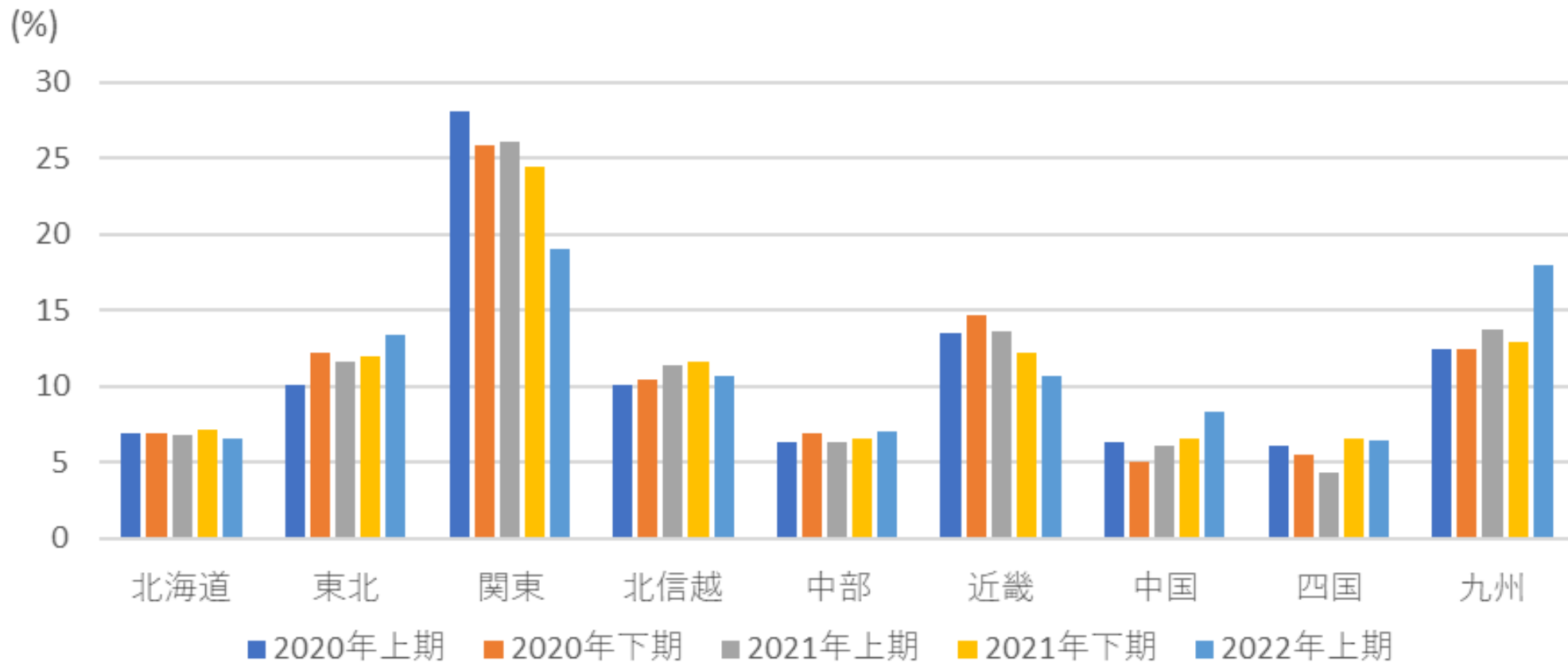


図14 活動再開判断が単位団での話し合いであった団（地域ブロック別）

2) 結果 2-2) コロナ禍における活動実施の状況

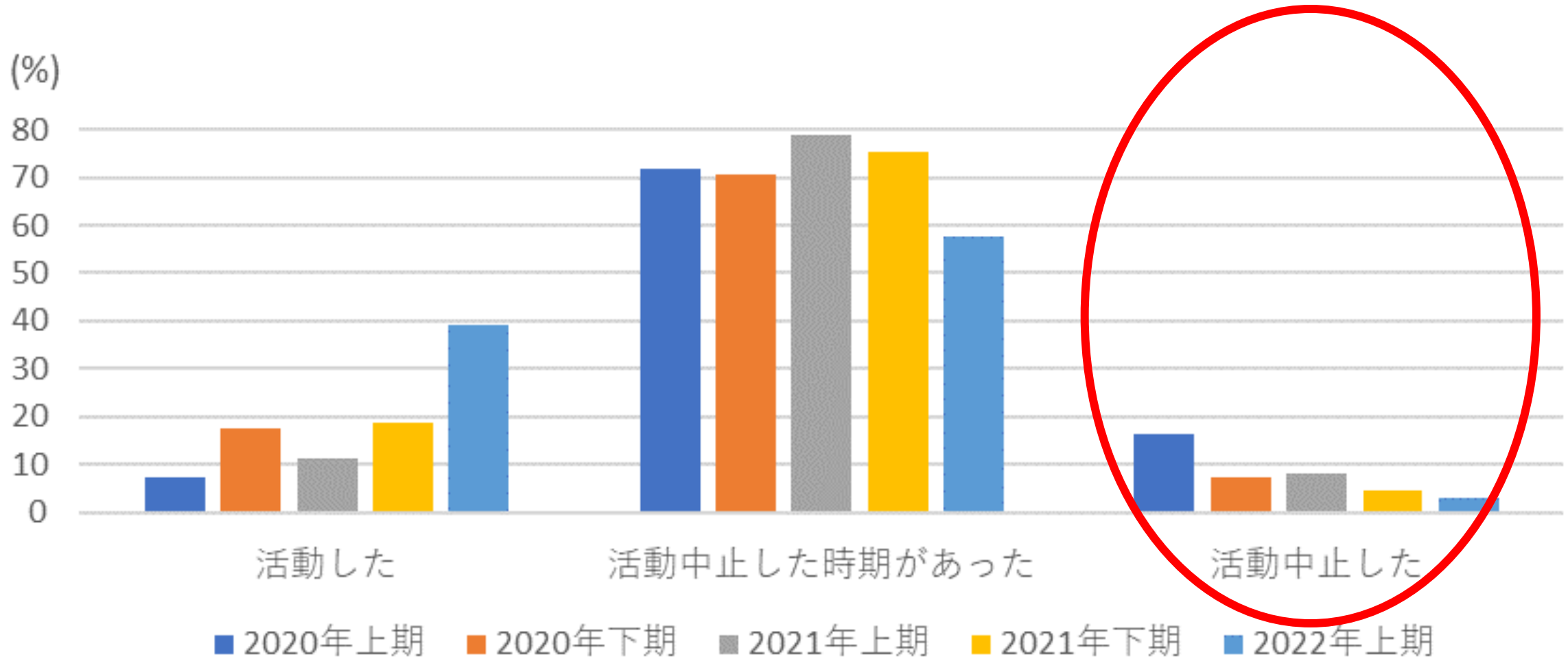


図1 コロナ禍における活動の実施状況

2) 結果 2-2) コロナ禍における活動実施の状況

▶ 「活動中止した」団の状況（地域ブロック別）

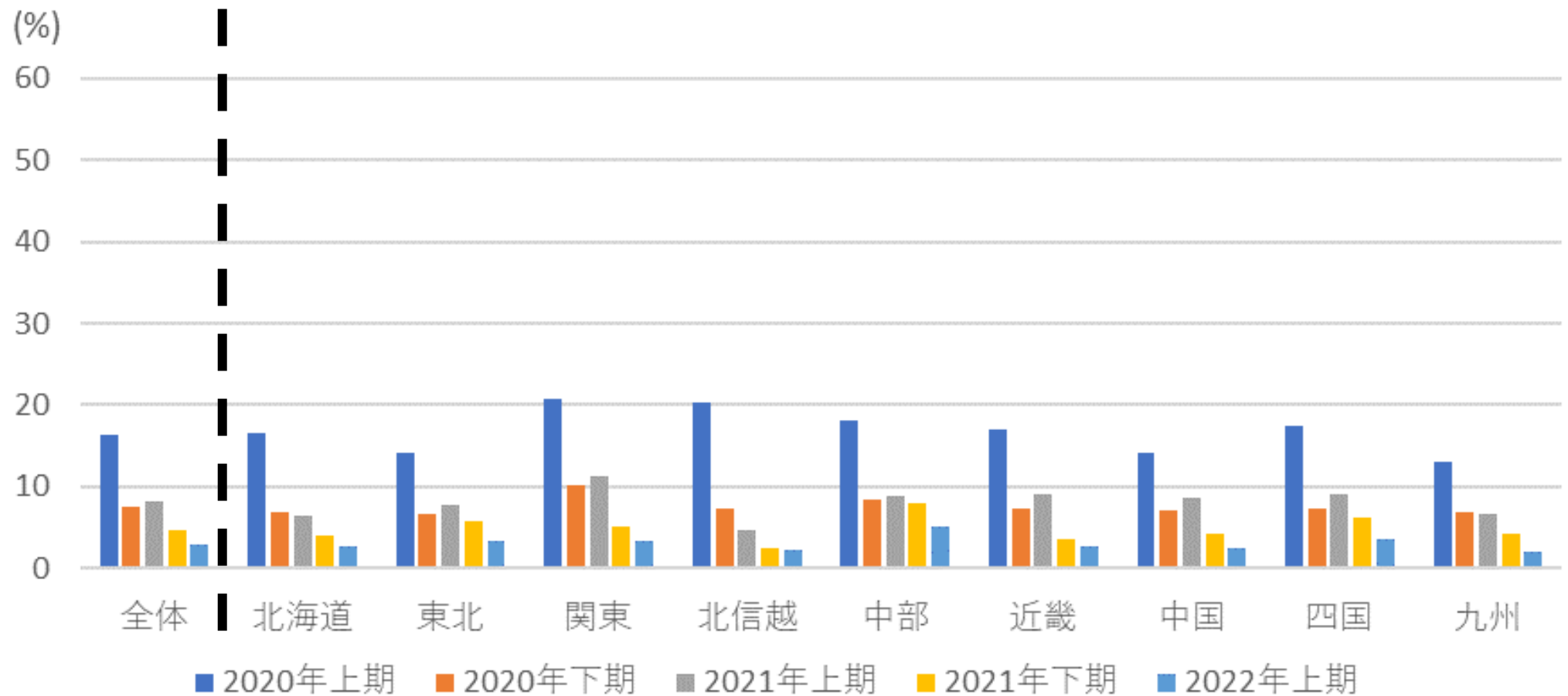


図15 活動中止した団の状況（地域ブロック別）

2) 結果 2-2) コロナ禍における活動実施の状況

▶ 「活動中止した」団の状況（種目別）

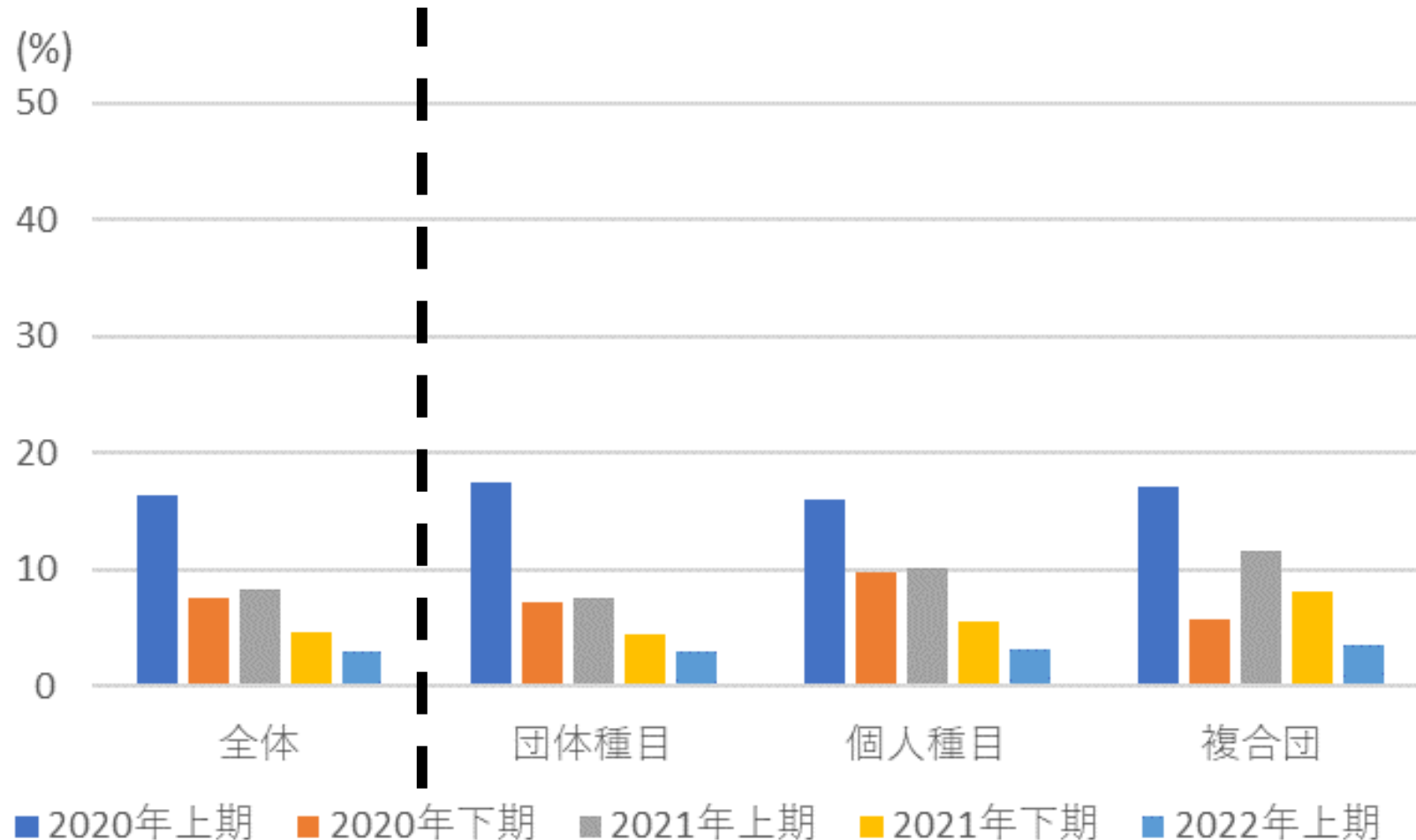


図16 活動中止した団の状況（種目別）

2) 結果 2-2) コロナ禍における活動実施の状況

▶ 活動中止した団の状況（団員人数別）

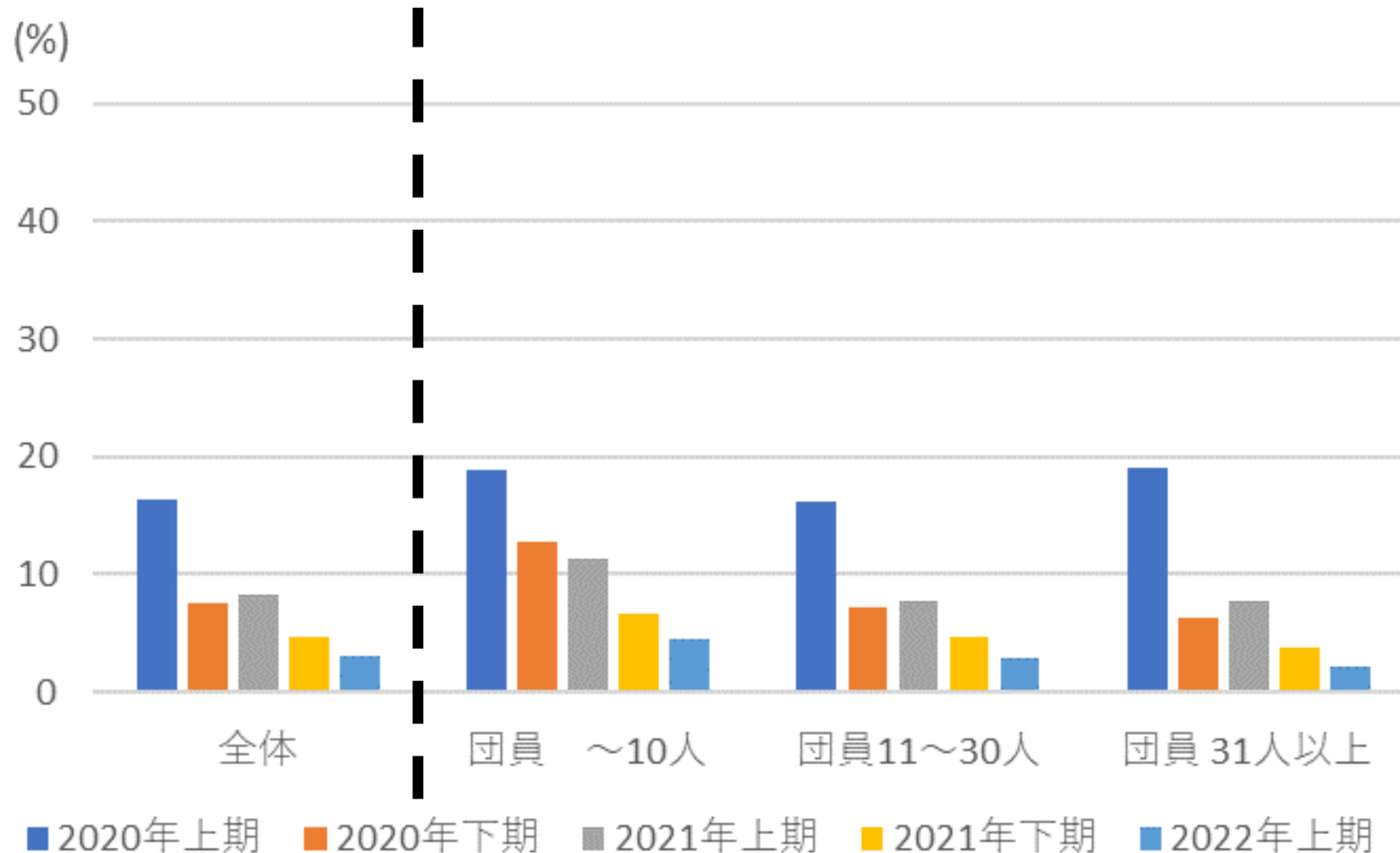


図17 活動中止した団の状況（団員人数別）

2) 結果 2-2) コロナ禍における活動実施の状況

▶ 「活動中止した」団の状況（指導者人数別）

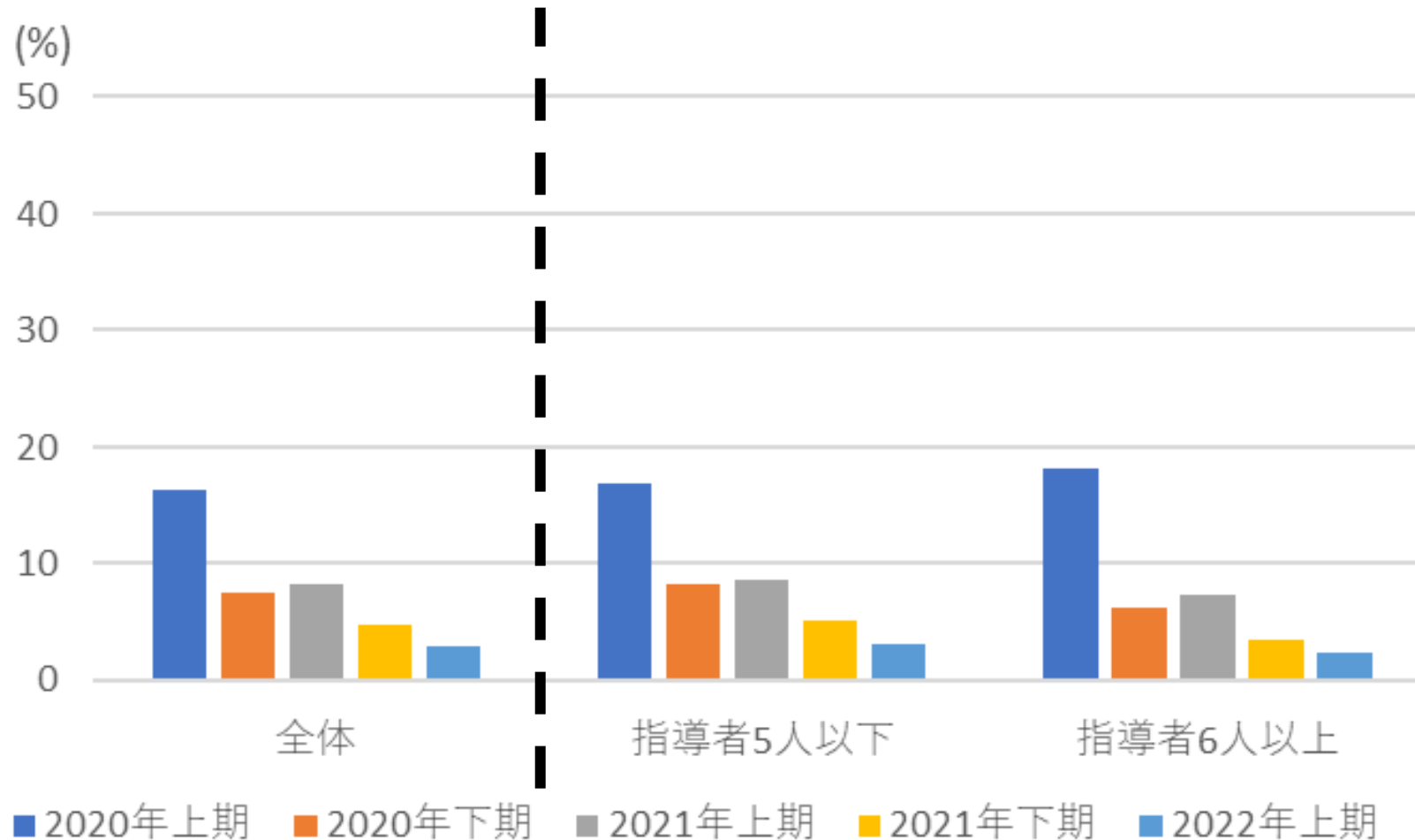


図18 活動中止した団の状況（指導者人数別）

2) 結果 2-2) コロナ禍における活動実施の状況

▶ 「活動中止した」団の状況（スタッフ人数別）

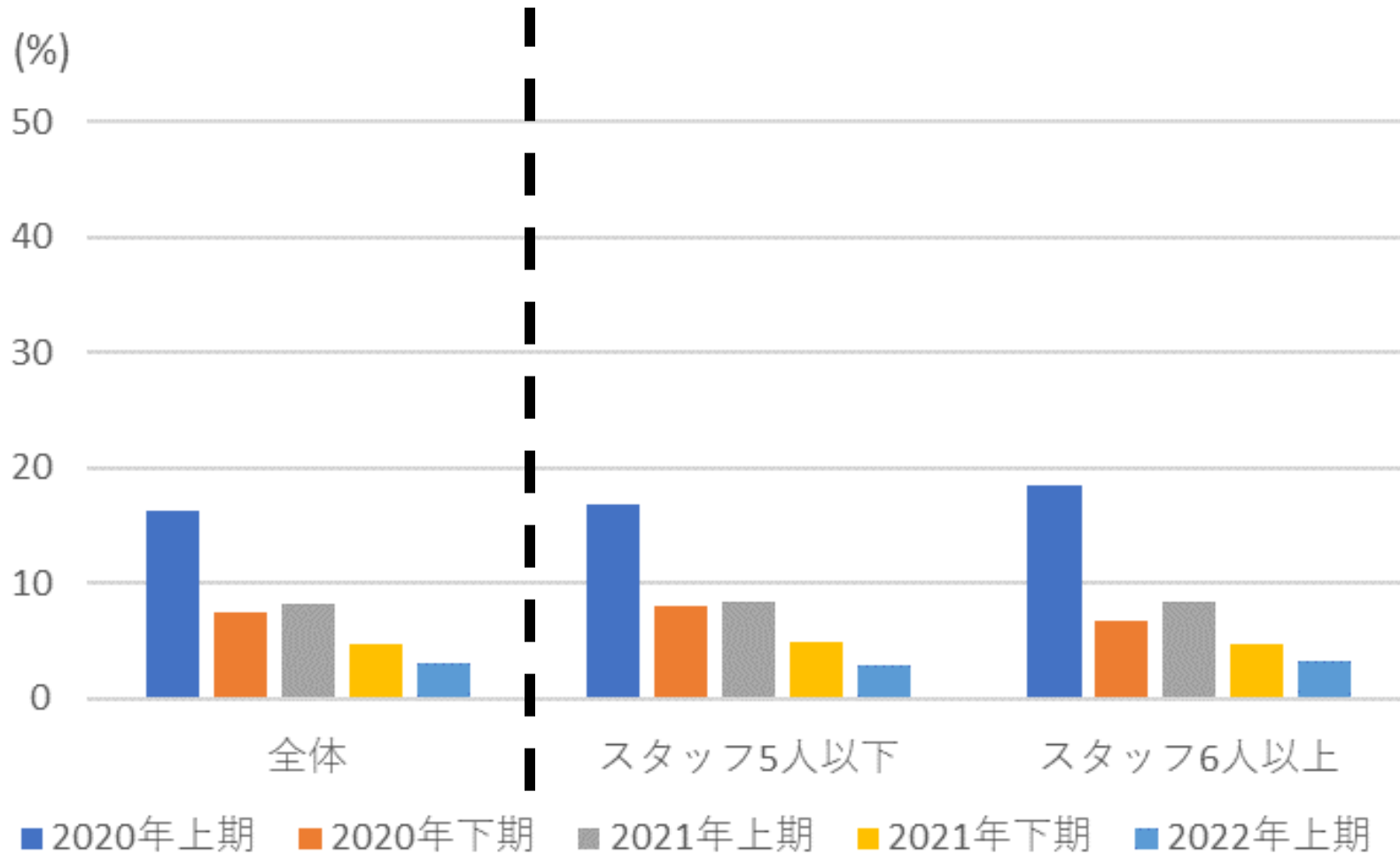


図19 活動中止した団の状況（スタッフ人数別）

2) 結果 2-3) コロナ禍後の変化

▶ コロナ禍後の変化（「プラス」と「マイナス」の変化）

表5 コロナ禍前と比較した「プラス」の変化（複数回答）

項目	n	%
認識の変化	4544	74.8
新たな工夫	2975	48.9
意外な効果	22	0.4
その他	1268	20.9

n=6078

表6 コロナ禍前と比較した「マイナス」の変化（複数回答）

項目	n	%
減少	10972	180.5
意欲減退	1201	19.8
増加、負担	79	1.3
新たな困難性（問題）	49	0.8
制限	23	0.4
その他	527	8.7

n=6078

※上記の各項目は、回答を集約化(カテゴリー化)し、内容をわかりやすく示したことから、項目によっては100%を超えるものもある

2) 結果 2-3) コロナ禍後の変化

▶ 「コロナ対策の工夫」と「JSPPOガイドラインの認知」

表7 基本的なコロナ対策以外での工夫（複数回答）

項目	n	%
スポーツ活動時に関する工夫	5373	88.4
飲食に関する工夫	4431	72.9
注意喚起に関する工夫	2387	39.3
連絡に関する工夫	1670	27.5
体調（衛生）管理に関する工夫	148	2.4
その他	47	0.8

n=6078

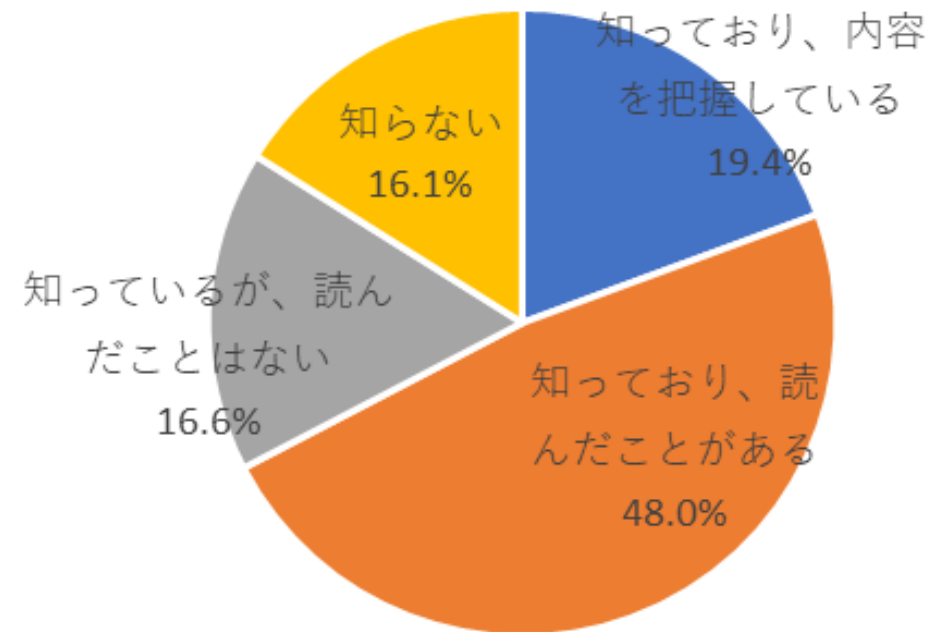


図15 JSPPOの感染拡大予防ガイドラインの認知

n=6078

2) 結果 2-4) コロナ禍を通しての単位団運営者の声

▶ 「困っていること」と「団員減少の理由」

表8 コロナ禍において困っていること（複数回答）

項目	n	%
スポーツ活動への支障	8294	136.5
人員の確保	3364	55.3
費用（負担）増加	1657	27.3
コミュニケーションの支障	1106	18.2
事務対応の増加	182	3.0
情報（地域）相違	14	0.2
協力（賛同）困難	9	0.1
意欲（モチベーション）減退	3	0.0
その他	39	0.6

n=6078

※上記の各項目は、回答を集約化(カテゴリー化)し、内容をわかりやすく示したことから、項目によっては100%を超えるものもある

表9 団員減少の理由（複数回答）

項目	n	%
PR機会の減少	2778	105.5
活動機会の減少（制限）	2135	81.1
交流機会の減少	1429	54.3
学校や地域との関わりの減少	1078	40.9
感染の不安	105	4.0
少子化の影響	48	1.8
保護者の（負担）意識	33	1.3
地域組織の多様化	25	0.9
スポーツ活動意識の減退	25	0.9
部活動との接続性の悪さ	3	0.1
その他	115	4.4

n=2634

2) 結果 2-4) コロナ禍を通しての単位団運営者の声

▶ 「登録継続理由」と「ヒアリング協力有無」

表10 コロナ禍においてもスポーツ少年団に登録している理由

項目	n	%
大会への参加	2771	45.6
毎年登録しているから	1650	27.1
優遇措置への期待	940	15.5
理念と歴史と権威	317	5.2
スポ少事業の魅力	136	2.2
子ども達の交流の場の確保	103	1.7
指導者のやりがい	43	0.7
要請	4	0.1
その他	114	1.9

n=6078

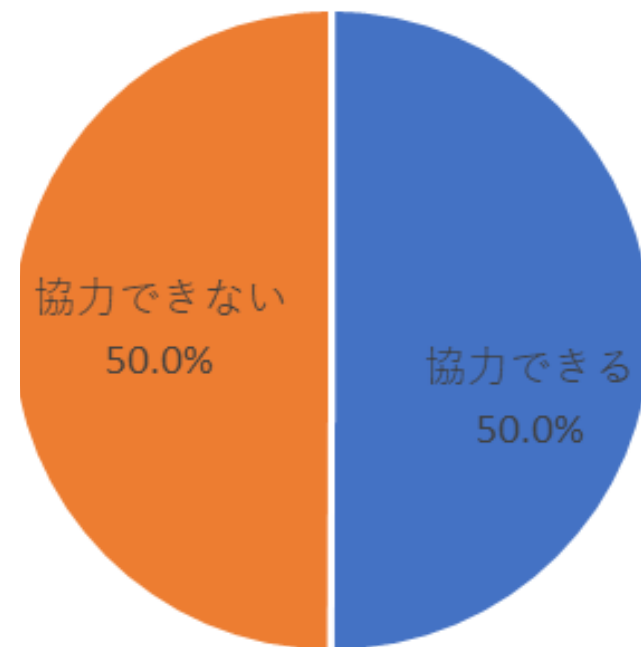


図16 ヒアリングへの協力有無

n=6078

2) 結果 2-4) コロナ禍を通しての単位団運営者の声

▶自由コメント（カテゴリー）

表11 自由コメント（カテゴリー）

項目	n	項目	n
対応の差異について	79	施設（活動場所）の確保について	24
登録について	39	感染対策への対応	24
団員および指導者の確保について	36	今後の活動への不安について	18
活動の自粛について	34	マスクの対応について	16
子ども達への思い	34	感謝について	8
要望について	32	大人たちの保身（都合）	7
団活動運営の負担増について	31	コロナ終息への願い	3
JISA事務局、都道府県本部への不満	30	その他	30
登録のメリットについて	29		

3) まとめ →アンケート結果

▶コロナ禍における活動実施の状況

「活動した」団：

増減推移は「③21上期」減少したが、その後は増加

「近畿ブロック」および「団員・指導者・スタッフ数が多い団」は「⑤22上期」最も多い傾向

「活動中止した時期があった」団：

増減推移は「③21上期」増加したが、その後は減少

中止や再開の判断の決め手は「市スポ少の連絡」が最も多い傾向

「活動中止した」団：

増減推移は「③21上期」増加したが、その後は減少

「団員・指導者・スタッフ数が多い団」は「①20上期」最も多い傾向

▶コロナ禍後の変化

プラスの変化：「認識の変化」「新たな工夫」「意外な効果」など

マイナスの変化：「減少」「意欲減退」「新たな困難性（問題）」「制限」など

工夫：「スポーツ活動時に関する工夫」「飲食に関する工夫」「注意喚起に関する工夫」

「連絡に関する工夫」「体調（衛生）管理に関する工夫」

ガイドラインの認知：認知している単位団は83.9%

3) まとめ →アンケート結果

▶コロナ禍を通しての単位団運営者の声

困っていること： **8 カテゴリー**

「スポーツ活動への支障」「人員確保」「費用（負担）増加」「コミュニケーション支障」

「事務対応の増加」「情報（地域）相違」「協力（賛同）困難」「意欲（モチベーション）減退」など

団員減少の理由： **10 カテゴリー**

「PR機会の減少」「活動機会の減少（制限）」「交流機会の減少」「学校や地域との関わりの減少」

「感染の不安」「少子化の影響」「保護者の（負担）意識」「地域組織の多様化」

「スポーツ活動意識の減退」「部活動との接続性の悪さ」など

スポ少継続登録理由： **8 カテゴリー**

「大会への参加」「毎年更新しているから」「優遇措置への期待」「理念と歴史と権威」

「スポ少事業の魅力」「子ども達の交流の場の確保」「指導者のやりがい」「要請」など

自由コメント： **15 カテゴリー**

「対応の差異について」「登録について」「団員および指導者の確保について」「活動の自粛について」

「子供たちへの想い」「要望について」「団活動運営の負担増について」

「JISA事務局、都道府県本部への不満」「登録のメリットについて」「施設（活動場所）の確保について」

「感染対策への対応」「今後の活動への不安について」「感謝について」「大人たちの保身（都合）」

「コロナ終息への願い」など

3) まとめ →結果考察

▶コロナ禍における単位団の運営状況

ガイドライン
把握

市行政・市スポ少
からの要請遵守

コロナ禍における
活動の工夫



活動自粛



活動・PRの場
の減少



団員・指導者の
減少懸念

+

自粛対応の
差

登録費用などの
負担

学校や保護者の
協力困難

大人たちの
保身（都合）

3) まとめ → 支援策検討の論点

▶ 活動・再開ポイントの検証（ヒアリング調査の実施）

- ・ 近畿ブロックでの取り組み
- ・ 指導者（スタッフ）数が多い団での役割分担
- ・ 市行政や市スポ少の指示内容

▶ コロナ禍における工夫（変化）の共有

- ・ プラスの変化
- ・ コロナ禍における活動での工夫

▶ スポ少登録（団員・指導者）費用の緩和

▶ スポ少事業（単位団活動・大会・イベント）の実施基準の明確化

▶ 災害時における学校・スポ少・地域スポーツ組織との活動連携協定

→ BCP（事業継続計画）※による早期活動再開に向けた支援策の検討

※ BCP（事業継続計画）とは、企業が自然災害、大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画（『中小企業庁』「1.1BCP(事業継続計画)とは」https://www.chusho.meti.go.jp/bcp/contents/level_c/bcpgl_01_1.html)

補足資料

表 コロナ禍前と比較した「プラス」の変化（複数回答）		
項目	n	%
認識の変化	4544	74.8
4.スポーツ活動の大切さを再認識した	3408	56.1
2.スポーツ少年団(単位団)の必要性を再認識した	1131	18.6
25.勝つことよりも大切なことを再確認できた	5	0.1
新たな工夫	2975	48.9
1.新たな工夫を取り入れて活動している	2339	38.5
3.ICT(オンライン)の活用	405	6.7
5.スポーツ以外の活動を取り入れた	156	2.6
11.活動時間短縮の工夫	14	0.2
12.衛生・感染対策に関する工夫	32	0.5
13.休憩時間を増やし、活動日数を減らした	6	0.1
15.練習メニューの創作工夫	5	0.1
16.不要な活動をやめた	6	0.1
17.新たな練習環境構築の工夫	9	0.1
19.保護者間でのコンフリクト解消の工夫をした	2	0.0
27.連絡網の確立	1	0.0
意外な効果	22	0.4
14.衛生管理、体調管理の質の向上	9	0.1
23.過度の活動が減り、親の負担が減った	5	0.1
18.個人練習(レッスン)の時間が取れた	3	0.0
21.会計に余裕ができた	2	0.0
28.関係者全員の活動に対する関心・協力が高まった	2	0.0
26.人数が増えた	1	0.0
その他	1268	20.9
6.変化はなかった	1213	20.0
7.プラス面はない	27	0.4
8.マイナス面しかない	14	0.2
9.比較できない	7	0.1
10.まだわからない	2	0.0
20.事務局等の通達の指示に従った	2	0.0
22.送迎で保護者の協力が増した	1	0.0
24.学校から活動時間の制限が厳しくなった	1	0.0
29.知事・市長の無能さが分かった	1	0.0

n=6078

表 コロナ禍前と比較した「マイナス」の変化（複数回答）

項目	n	%
減少	10972	180.5
5.他の団(チーム)との交流の減少	4477	73.7
3.団員の減少	2158	35.5
1.活動時間(1回あたり)の減少	1874	30.8
2.活動頻度(1週間あたり)の減少	1850	30.4
4.指導者の減少	356	5.9
9.大会参加・実施の減少	72	1.2
13.体力、技術の低下	60	1.0
10.団内交流・レクイメントの減少	53	0.9
23.チーム内のコミュニケーション減少	28	0.5
28.団員募集機会の減少	25	0.4
11.合宿の減少	16	0.3
39.活動資金の減少	3	0.0
意欲減退	1201	19.8
6.団員の元気がなくなった	1192	19.6
37.保護者の関わり方の希薄化	5	0.1
42.リーダー活動衰退	1	0.0
43.指導者のモチベーション低下	1	0.0
15.コロナをスポーツ等をさせたくない理由にしている	1	0.0
45.本人と家族が練習を簡単に休めるようになった	1	0.0
増加、負担	79	1.3
20.感染予防に関する対応の負担	29	0.5
17.費用が増加した	13	0.2
24.新たな活動場所確保の負担	10	0.2
34.保護者の負担増加	5	0.1
33.ケガの増加	4	0.1
36.担当者間の連絡調整が頻繁	4	0.1
27.試合の過密スケジュール	3	0.0
22.保護者の不安感の増加	2	0.0
31.試合等での配車の負担	2	0.0
32.子ども達のストレス増加	2	0.0
40.不安感	2	0.0
12.団員が一時減ったがその後増えた	2	0.0
30.団員の増加	1	0.0
新たな困難性（問題）	49	0.8
19.マスク使用判断の難しさ	25	0.4
35.円陣や応援コールの継承困難	10	0.2
25.監督とコーチと保護者の分裂	7	0.1
29.上位団体はあてにならない	2	0.0
16.コロナに対する考え方がまとまらず採めた	1	0.0
44.地域社会活動に対する理解・支援の困難	1	0.0
41.個人情報の保護が疎かになった	1	0.0
18.選手育成に遅れが生じた	1	0.0
38.団員の心のケアの困難性	1	0.0
制限	23	0.4
21.活動内容の制限	14	0.2
26.試合等での指導者や保護者の入場制限	8	0.1
14.活動内容、行動に制限がある	1	0.0
その他	527	8.7
7.変化はなかった	513	8.4
8.比較できない	14	0.2

n=6078

表 基本的なコロナ対策以外での工夫（複数回答）

項目	n	%
スポーツ活動時に関する工夫	5373	88.4
7.活動時間の調整(昼食をまたぐ活動を控える)	1763	29.0
4.複数人で同じ用具を活用しないようにしている(同じ用具を使う場合は消毒をしている)	1429	23.5
2.時間を分けて、少人数で活動している	981	16.1
8.活動における指導者やスタッフの人数を最低限に減らす(保護者の見学を控える等も含む)	834	13.7
1.活動場所を変更した(コロナ禍前より広い場所、屋内から屋外に変更した等)	323	5.3
17.分散して移動	25	0.4
21.練習(トレーニング)等の変更	9	0.1
24.個人練習の充実	5	0.1
25.交流会の中止	3	0.0
27.大会・試合等の自粛	1	0.0
飲食に関する工夫	4431	72.9
6.飲み物を各自持参している	4418	72.7
19.食事(黙食等)の徹底	13	0.2
注意喚起に関する工夫	2387	39.3
5.掛け声等、大きな声を出さないようにしている	2317	38.1
11.マスク着用	31	0.5
15.ソーシャルディスタンスの注意喚起	18	0.3
14.フェイスシールドの使用	12	0.2
18.独自のルール(コロナルール)を作成した	9	0.1
連絡に関する工夫	1670	27.5
9.単位団内でスムーズに連絡できる体制を整えた(SNSの活用、連絡ツールの導入等)	1394	22.9
3.ミーティングや指導でICT(オンライン)を活用している	270	4.4
26.ミーティング活動の簡素化	3	0.0
20.こまめなミーティングの実施	3	0.0
体調(衛生)管理に関する工夫	148	2.4
12.手洗い、うがい、消毒、換気、検温の徹底	113	1.9
13.健康チェックシートの記入	21	0.3
16.体調管理の徹底	12	0.2
28.医療従事者のスタッフの受け入れ	1	0.0
23.心の安定に気を付けた	1	0.0
その他	47	0.8
22.上部団体の指針に従った	8	0.1
10.特になし	39	0.6

n=6078

表 コロナ禍において困っていること（複数回答）

項目	n	%
スポーツ活動への支障	8294	136.5
3.スポーツ大会への参加機会の減少	3819	62.8
7.スポーツ活動場所の確保	1390	22.9
4.地域活動への参加機会の減少	1366	22.5
2.活動頻度(1週間あたり)の確保	852	14.0
1.活動時間(1回あたり)の確保	791	13.0
18.運動中のマスク対応(熱中症予防のバランス)	20	0.3
13.活動外の交流機会の減少	19	0.3
19.大会・試合での入場制限	14	0.2
15.練習・試合の機会の減少	12	0.2
14.合宿や遠征ができない	5	0.1
27.移動時の車の確保	4	0.1
28.試合などで声を出せない	1	0.0
30.大会開催要領の大幅に変更	1	0.0
人員の確保	3364	55.3
5.団員の確保	2634	43.3
6.指導者の確保	730	12.0
費用（負担）増加	1657	27.3
8.コロナ感染症対策に関する費用・経費(例えば、消毒や通信などの費用)の増加	1643	27.0
17.感染症防止対策の対応負担	5	0.1
33.経費の増加(月謝収入の減少)	4	0.1
32.指導者の負担増加	3	0.0
31.保護者の負担増加	2	0.0
コミュニケーションの支障	1106	18.2
9.団員とのコミュニケーションの方法	1091	17.9
20.指導者と保護者のコミュニケーションの減少	15	0.2
事務対応の増加	182	3.0
10.ICT(オンライン)の使用方法(通信機器の操作が分からない、苦手である)	92	1.5
11.ICT(オンライン)の活用方法(通信機器の活用の仕方が分からない)	59	1.0
16.感染者が出た時の対応	9	0.1
21.保護者の不安への対応	9	0.1
22.試合参加調整	6	0.1
24.欠席やキャンセルの対応	3	0.0
38.コロナに関しての連絡や書類の莫大な増加	3	0.0
40.個人情報が疎かになっている	1	0.0
情報（地域）相違	14	0.2
25.学校(県・市)とスポ少で、自粛等通知内容の相違	11	0.2
37.市町村ごとで活動できる内容が違い、地域差が発生	2	0.0
29.他のチームは練習や大会を開催している	1	0.0
協力（賛同）困難	9	0.1
35.コロナ対策に対する意識の差(非協力的)	5	0.1
26.感染症予防対策ルールに協力してくれない	2	0.0
41.OB・OGの参加が少ない	1	0.0
42.行政(学校)が非協力的	1	0.0
意欲（モチベーション）減退	3	0.0
34.技術力の低下	1	0.0
36.団員のモチベーションの低下	1	0.0
39.経験値の喪失	1	0.0
その他	39	0.6
12.特にない	38	0.6
23.団員の増加	1	0.0

n=6078

表 団員減少の理由（複数回答）

項目	n	%
PR機会の減少	2778	105.5
2.団員確保の機会が減った	1722	65.4
5.単位団PRの場の不足	1052	39.9
37.入団希望者が減	2	0.1
12.体験や見学に来る機会が減った	1	0.0
26.新たな加入者がいなくなった	1	0.0
活動機会の減少（制限）	2135	81.1
7.大会の中止	1191	45.2
8.単位団活動の減少	941	35.7
23.指導者減により入団募集停止	2	0.1
35.受け入れ人数の制限	1	0.0
交流機会の減少	1429	54.3
3.団員間の交流の機会が減った	820	31.1
4.他の団との交流の機会が減った	608	23.1
34.団員保護者との交流の機会が減った	1	0.0
学校や地域との関わりの減少	1078	40.9
6.地域とのつながりが減った	555	21.1
1.学校との接点が減った	517	19.6
20.学校が非協力的	6	0.2
感染の不安	105	4.0
13.コロナ感染リスクへの不安	71	2.7
29.団体の活動を敬遠	23	0.9
27.接触競技であるため自粛傾向が強かった	5	0.2
14.室内スポーツのイメージが悪かった	4	0.2
32.世間からの印象が悪くなっている	1	0.0
39.マスク着用が敬遠される	1	0.0
少子化の影響	48	1.8
17.少子化	47	1.8
10.過疎化で子供の減少	1	0.0
保護者の（負担）意識	33	1.3
16.保護者の負担	23	0.9
25.親の都合	5	0.2
11.保護者が部活動に関わることを嫌がる	3	0.1
36.保護者のスポ少活動への無関心	2	0.1
地域組織の多様化	25	0.9
24.スポーツ種目の多様化	17	0.6
18.クラブチームの増加	5	0.2
40.活動制限が解除された地域のクラブチームへ流出	3	0.1
スポーツ活動意識の減退	25	0.9
19.スポーツへの意欲減退	15	0.6
21.家庭外での活動自粛モード	5	0.2
28.世の中が閉鎖的になり活発でなくなった	3	0.1
22.外出制限等で自宅でできるオンラインゲームに興味ができる	2	0.1
部活動との接続性の悪さ	3	0.1
15.中学部活動の地域移行の不透明さ	1	0.0
30.中学校の部活動へ繋がらないため	1	0.0
31.文部科学省のスポーツ活動軽視と働き方改革の推進	1	0.0
その他	115	4.4
33.生活リズムの乱れ	1	0.0
38.スポーツ施設確保が困難	3	0.1
9.わからない	111	4.2

n=2634

表 コロナ禍において制限がある中でもスポーツ少年団に登録している理由

項目	n	%
大会への参加	2771	45.6
活動種目の大会(市区町村、都道府県、ブロック大会)に参加するため	2422	39.8
活動種目の大会(全国大会)に参加するため	336	5.5
少林寺拳法では本部への登録にスポ少登録が必要なため	10	0.2
競技力向上のため	3	0.0
毎年登録しているから	1650	27.147
毎年登録しているから	1650	27.1
優遇措置への期待	940	15.5
活動場所(公共施設等)の優先権・利用料減免等が受けれるため	928	15.3
活動交付金が出るため	12	0.2
理念と歴史と権威	317	5.2
活動にあたって周囲の信用が高まるため	248	4.1
スポーツ少年団の理念に共感している為	57	0.9
歴史があるから	11	0.2
国のスポーツ推進事業に参画しているという自覚と誇り	1	0.0
スポ少事業の魅力	136	2.2
活動種目以外のスポーツ少年団事業に参加するため	113	1.9
団員育成のため	19	0.3
講習など、学びの場を用意して頂いていること	3	0.0
ジュニアリーダー育成のため	1	0.0
子ども達の交流の場の確保	103	1.7
スポーツを楽しんでいる子ども達がいるから	50	0.8
スポーツをする機会の場所(交流)の確保	36	0.6
子供たちにはスポーツが必要だから	9	0.1
コロナが収まったときに子供達が活動できる場所を確保しておくため	7	0.1
子供たちに家庭や学校以外の居場所を作ってあげたいから	1	0.0
指導者のやりがい	43	0.7
各種目を楽しむ子ども達を増やしたいから	35	0.6
指導者の資格を継続させるため	6	0.1
元気がもらえるから	2	0.0
要請	4	0.1
市の担当者から勧められたから	3	0.0
保護者からの要請	1	0.0
その他	114	1.9
わからない	87	1.4
地域交流、地域発展のため	8	0.1
学校活動の延長	6	0.1
デメリットがないから	1	0.0
無回答	12	0.2

n=6078

表 自由コメント

対応の差異について (79)

<p>バスであれば」BA。その両方の団体から、「活動自粛」と「ルール守って活動可能」とそれぞれの通知が発出されたことがあった。どちらを守ればいいのか困る。</p>
<p>スポーツ少年団は競技の特性が異なる様々な競技団体が所属しているので「一律に活動自粛」という強い通知を出していいものなのか疑問である。</p>
<p>各チームはかなり混乱していた。「各所属団体及び会場管理者のルールを遵守」くらいで十分ではないのだろうか。</p>
<p>スポーツ界の統一が必要ではないでしょうか？</p>
<p>スポーツ少年団は、子供たちの活動領域に制限をかけすぎている。</p>
<p>スポーツ少年団へ加盟している団はコロナ感染予防での練習、試合も規制がある中、クラブ制サッカーなどは練習、ナイター練習を行っている。</p>
<p>これに関しては不愉快でもあり規制を行うべき!また、学校もコロナに関して明確な基準がない様に思う。</p>
<p>屋内や屋外の種目により違いがあるのは仕方ありませんが、活動(レク含む)について公的機関等へ問い合わせをしても、団体の判断で等、明確な指示をえられませんが、</p>
<p>足並みを揃えるのは難しいかもしれませんがある程度、確実な指示をして頂けると活動しやすいので宜しくお願いします。</p>
<p>活動の制限が、市町村によってまちまちである。本宮市は、厳しすぎる。</p>
<p>活動自粛、再開の条件が厳しすぎる。</p>
<p>県とスポーツ協会の基準が違った→現場が混乱</p>
<p>県と市町村の制限に違いがあり混乱する場合がある。</p>
<p>県レベルで感染状況が違うが、私のチームは、ワクチンも打てない状況で子どもたちの感染予防に努め、休みの判断をしたが、隣のチームでは休む方がおかしい位の発言でお構いなして練習継続するチームもある。</p>
<p>休んだ分やはり力の差が出た。市の判断でも統一性も取れないことから、せめて感染者の多い地区、少ない地区での活動指示判断を県・市で協議して代表者説明を実施して欲しい。</p>
<p>現在、濃厚接触者は1週間程度で職場や学校に復帰できるが、各種大会のガイドライン等はいまだに開催日から2週間の期間を確認されるが、現状にあっていないと思う。</p>
<p>このことにより大会等への参加の棄権をしないといけなくなる。</p>
<p>参加者名簿の廃止。自治体により公共施設の制限が異なるため不公平感がある。</p>
<p>活動の理念は、あまり変わらないように思われるが、支援の差があるのが納得いかない。</p>
<p>自粛と周知されているにもかかわらず私学は練習しているや練習しているところがあるように、ルールを守ってところがバカらしくないように管理体制をしっかりとっていただきたい。</p>
<p>自粛をする事は理解して従ったが、自粛に平等性がなく、我慢させる子供達に説明するのが大変だった。</p>
<p>自粛期間中に屋外で練習等をする団体があり、競技により自粛する重要性が統一されていないと思われた。</p>
<p>室内競技に対する風当たりは以前強く、自粛の矛先となっている。</p>
<p>スポーツ協会との連携で、国内外の大会などの映像や情報を、さらにSNSに拡散してほしい。</p>
<p>サッカー協会は仕組みが出来ているので指示も統一されている。</p>
<p>小学校と公民館を併用して活動していますが、まん延防止期間中は、小学校はNG、公民館はOKと共通の基準ではなかった。</p>
<p>当団では団員の感染予防を第一に考えて活動を休止したが、抜け道の見つけて活動するチームもあったのが残念だった。</p>
<p>また、保護者達も戸惑っており、今後の活動において一貫性のあるスポーツ団体になってほしいし、双方の歩み寄りを念願する。</p>
<p>色々な場所で活動すると、それぞれ利用する人やルールが違うので、コロナ対策が本当に大変。</p>
<p>大人の制限と子ども達の制限の均一化ができていないのでは？</p>
<p>Withコロナの考えにシフトしているはずなので、ガイドラインに沿った運営と判断をお願いします。</p>
<p>地域に根付くスポーツ少年団(チーム)で単独での行動は全く考えていませんが、まん延防止期間中での大会など棄権でなくやむなく参加している状況です。</p>
<p>利益を目的とした団体が活動できているのに、なぜボランティアで行っている少年団が活動できないのか意味がわからない。</p>
<p>また、大人が蔓延防止措置期間中、時間制限がありながら飲食できるのに対して、子供ばかり活動が制限されてしまう。</p>
<p>その点、現在の大会は公平では無いと思います。</p>
<p>我が団は、2種目の競技を市スポ少本部や学校からの指導およびそれぞれの競技のガイドラインを遵守して活動しており、今回の質問に対する回答がしにくい部分がありました。</p>
<p>コロナへの対応が統一されていない為、指導者、保護者間での温度差がある。</p>
<p>コロナ禍、感染防止対策とはいえ、活動中止、活動制限と行政よりも先に通達文が出てきて 誰のための組織かわかりません</p>
<p>子供たちの組織というより、事務局職員の自己防衛、保身にしか映りません</p>
<p>せめて各競技団体と歩調を合わせて欲しいものです 子供を守る、という詭弁で活動制限はいい加減にして欲しいものです</p>
<p>少年団全体としてそこが事前に確立されていれば、公平性も保たれる事に繋がるので是非協議頂きたいと思えます。</p>
<p>コロナ禍において、同じ県内であっても、各市町村の判断で、校庭を使用出来るところと使用出来ない学校があったり、練習は良くても試合はダメなど、統一がされていないことで振り回されています。</p>
<p>特に、各校の教頭判断の善し悪しで、利用が制限されることに頭を悩ませています。</p>
<p>コロナ禍の各通知について、国・県・市の通達の1本化</p>
<p>コロナ過になり、同じ競技にも関わらず、市区町村での対応に差異があることに違和感を感じました。</p>
<p>例えばA市では活動が許可されている(公共施設の貸出可)が、B市では活動が許可されない(公共施設の貸出不可)などがありました。</p>
<p>この差を埋めて頂きたいと思えます。</p>
<p>コロナ感染者数を減らすには、スポーツ少年団に加入していない団体のみ休止要請を出すのでは無く、加入していないスポーツ団体も活動を休止すべきだと思います。</p>

活動内容も市町村、種目によって違い母集団から不満が寄せられ困りました。
益城町スポーツ少年団事務局の通達と、競技団体からの通達内に記載される「活動自粛基準」「活動自粛期間」が大幅に違うためです。
現在は、最大基準（厳しい：町スポ少）に合わせ活動していますが、長期間の自粛からの再開は、大会出場、練習などで怪我や熱中症の危険が増し、指導者への心的負担も大きい。
スポーツは、種目により接触等も違うため、競技団体からの通達が、活動を円滑に進めるために相応しいと考えます。
スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」は、知らなかったが、少林寺拳法連盟のガイドラインに則り、活動していました。
スポーツの種目によって感染の状況が大幅に違うと思うので、活動自粛の通達をもっと考えて出してほしいと切に願います。
スポーツ協会と県サッカー協会に所属しているが、スポーツ協会の方が活動制限が厳しい。
スポ少は活動自粛中にも関わらずクラブチームは活動している実態があった。
そのため、当団ではないがスポ少が活動自粛中にも活動できるクラブチームへ移籍する選手がいた。
同じスポーツをしていて活動制限が違うことで活動できるチームとできないチームに差が発生し、選手達のモチベーションも下がる。
勝利優先ではないが、成長スピードが早い小学生年代での活動自粛期間の相違はスポ少運営にとって多に影響がある。
スポーツ少年団と社会体育のチームで格差が広がる一方です。
スポーツ少年団から練習や遠征などの活動中止を出されるも、スポーツ少年団に属していないチームは普通に練習している。この格差を感じています。
スポーツ少年団に所属団体は施設の利用が制限されたのに、スポーツ少年団に加入していない団体には制限されておらず、同じ施設をほとんど同じ小学校の子ども達が使用するのに、加入か未加入かで制限をするしないを決定していたのに納得いかなかった。
感染予防という観点から他の団体はスポーツ少年団の制限に準ずるようなものがあつた方が良かったと思った。
リビッックはやるのに少の練習はなぜできないのと子供に聞かれて困った。
市区町村によって活動自粛期間や自粛内容が違う為市区町村で練習の差があり大会に出ると力の差が出てきていると思う。
私どもの団体は、少年団活動と総合型地域スポーツクラブに所属しているが、少年団活動には行政の支援があるが、総合型地域スポーツクラブには、何も無いがどうしてかわからない。
在住市町村以外に住んでいないだけで、試合に出れない子がいます。
緊急事態宣言が複数回発令されましたが学校施設の利用は制限がありました。が別施設での活動は可能であったため感染症拡大抑制のための緊急事態宣言であるかと存じますが、活動可否を県ないし市町村で明確にいただければコロナ渦における団活動の範囲が分かりやすく感じました。
また活動時間に制限がある場合においても強制力が無い為結局のところ団での判断で自由に時間が設定できてしまっているのが現状です。
状況は理解しているものの、周りの市町村は練習開始している中、活動できず、保護者から何故出来ないかと、問い合わせが殺到した。周りとレベルを合わせて欲しい。
宮城県内の、市町村のスポ少事務局に活動開始有無の指示に偏りがある。
活動再開時の県からの通知内容が明確でない部分があり、都合の良い解釈をする指導者がいる。
また、専門部役員が指導しているチームがコロナ禍の活動停止要請がある中にも関わらず、地区外、県外に出て活動していた。などどうなっているんだろう？と思うことがある。専門部役員を上部組織は監視してほしい。
このようなことがあるから、勝利至上主義とみなされ、全国大会が中止の方向になっているのではないかな？
都道府県で差がありすぎて、統一の考えはないのか疑問なときもあります。子どもの為に。
それでも、「決まっていることだから仕方が無い・・・。」と制限するのは変な話だと思います。不公平感を抱いています。
では、野球やサッカーなどはいいんですかと言いたいです。はっきり言ってこの方々が感染者をまき散らしていると言っても過言では無いと思います。
今まで何人の感染者を出したのですか？何故、チーム全体を活動停止にしないんですか？そっちの方が先でしょ？・・・と言いたいことは山ほどあります。
個人の理由で試合に出れない子はどうすれば良いのかご教授下さい
登録について（39）
コロナ禍で活動が出来ない中で、全国大会、東北大会、県大会が中止になっても団、団員、指導者登録費用がそのままなのは何故でしょう？
その経費は繰り越されているものと思いますが如何でしょうか。
指導者の資格が改正され会費も高く新設になった訳ですが、今までどおりの会費無しで指導者登録でダメなんでしょうか。
指導者、団員の登録料を廃止してほしい
団員数が減る中、指導者の登録料が高いので、なかなか指導者を増やすことができません。
登録料の負担が大きい。
必要最低限の大会運営費は徴収可、団員・指導者登録費用・更新費用は無料化。
毎年高い費用をかけて、指導者や団員の登録を行っています。市の軟連の登録のためだけであって、はっきり言ってそのほかのメリットが思いつきません。
団員の減少により指導者の経費（登録料、講習会費用）が負担が厳しい
上部の団体がスポ少・JBAに分かれているため、一貫性がなく大会等の参加に苦労しているとともに、登録費・参加費等も別々の為、金額面で運営に苦労している。
少年団の指導者資格登録費用などもう少し低減してほしい
少年団大会参加のため、継続しましたが指導者確保、登録費用増加のためボランティア活動が成り立たない
指導者資格取得の簡素化（コロナでの取得機会がないため団の運営危機）などご検討、ご指導頂きたい。
指導者資格登録費等の負担が大きすぎる。
指導者の資格費用や時間が無駄。廃止してほしいです。
指導者の質を上げるために指導者資格の変更を行ったが、登録の条件が厳しく登録団が減っていく要素の一つになっていると感じる。
指導者の登録費を支払うようになるが、冊子などの印刷物と印刷物の送付をやめてネットで閲覧するようにした方がよい。
少年団単位の人数が少なくなる中、指導者の登録費が重荷になり、人数が少なくなれば少年団の登録をやめることを既に考えている。

登録料が負担となり少年団の登録をやめようと思っています。
スポーツ少年団の登録費が高い、予選4試合して参加費、選手登録費、指導者登録費 2万円ぐらい支払う。
スポーツ少年団に費用を払っても見合った大会がない。
サッカー協会のライセンス制度は少年団登録とは無関係ですが、市の施設確保のために登録していますが、スポーツリーダー登録とか余分な登録費が必要となっている。
指導者の資格について変更があり、お金もかかるようになり、指導者をお願いするに当たり困っている。
冊子などをネット掲載にするなどして、冊子の印刷や送付をやめて、指導者の登録料を無くしてほしい。
コロナ禍での活動停止期間中は、団員からの活動費の徴収が難しく、登録費の免除或いは減額等考慮頂ければ助かります。
少年団登録の期間制限はどうにかなりませんか？
新しい指導者資格登録制度の意図が全く理解できません。撤回を要求します。
指導者の服装も統一、お金の係ることばかりです。
ネットでの登録が可能になり便利になった。が、半面、パソコンに不慣れな者にとってはまだまだ、システムが難しいように感じられる。
そして、指導者の資格登録更新がネットでしか出来ないのは不都合もある。
指導者のネット環境が整っていない場合は更新ができず、スポーツ少年団へのチーム登録を断念せざるおえない。
資格登録や、団員登録の方法の選択肢が複数欲しい。
スポーツ少年団において 指導者講習会や資格などがないと登録できないなどの動きがあるが 無償、ボランティアで引き受けてくれる指導者に高額すぎる講習会代である。
オンラインツールなど使用して、団体として登録すれば無料で受けられる講習などを整えてほしい。
次年度よりの少年団登録が変更になることにより新年度は登録をしない予定です。
今回、認定員からコーチングアシスタントへ移行で剣道指導者は全日本剣道連盟 指導に沿った指導・活動が主で、まして3年に1度の講習・費用負担もありスポーツ少年団の退会も検討されている。
スポーツ少年団への団員の登録について。
スポーツ少年団として県連への登録が出来ない。(空手)
登録規定が明確ではない。
地域の中でなくなればやめるの声は少ない。団にとっては高額の登録費を支払う条件になっている感がある。
団員および指導者の確保について (36)
団員減の状況で団体スポーツを継続していく環境が無くならないか危惧している。
指導者もボランティアであり、なり手も不足しています。
今後、子供の減少により団の合併等で相当減少するものと思われませんが、それについての対応はどのようになるのでしょうか。
団員も減っており、数年のうちに子供がいなくなり閉会するしかない。
コロナ禍とは別に少子化により団員数が減少している、国に抜本的な少子化対策を働きかけて頂きたい。
会員不足、指導者不足、受講もオンライン講習、良い事はありません。
今の少子化の状況に対応していないことが多くチームが成り立ちません。
今の状況に対応した改善をお願いします。
今後、中学校部活動の受け皿として、スポ少がどうしていけるかが不安。指導者の時間的な拘束が長くなり、ボランティアとしては厳しい状況。
指導者はボランティアであり、中学校の部活が有償ボランティアを検討するのであれば、今後の子どもたちの体験・スポーツ活動に対して充実した有償支援をするべきではないか。
団員の確保に苦慮しています
団員を増やして行きたい。
これだけ子供がスポーツをしなくなって、親も仕事で週末の休みがないのに資格取得にオンラインがない。
大人がいないと登録できない等、今の環境には合わなくなっているように思います。
コロナの感染拡大の影響もるが、体験会を開催すると十数名の児童・生徒の参加があり、入団の意向を示す児童もあるが、いざ入団となると躊躇されるケース多い。
スポ少の指導資格講義内容がスポーツ協会のコーチ資格と重複している内容が多く、取得に前向きな人材の確保が難しい。
所属団員の小学校が1校で、体験会等で勧誘をしてもなかなか団員が増えません。
近くの地域に、ミニバスの少年団が多くあり、どこも団員の確保が難しいと聞きます。
ただ、団の伝統もあり、どこも存続を願っています。
指導員も年を取り、新しい指導員もなかなか手がない状況です。
また、指導員二人をキープすることが大変になってきました。
コロナでスポーツ指導員への移行もまだ出来ていません。
指導者としての資質向上も目的とした講習会等も減った。
指導者の研修や資格講習などオンラインで出来るようにして欲しい器械体操は東京に行かないと出来ない。
ほそぼそと活動している我がチームにおいて、大会に出て行く場合の指導者の人数、また資格の種類によって大会に出場出来ません。
また競技種目によって人が集まらない場合があります。
空手道は人は集まりますが、なぎなたは団体種目ですが中々集まりません。

競技人口、チーム数が年々減っていく傾向として子供達が年々スポーツ離れをしているのかなと思います。
児童数が少なくなり、それに輪をかけてコロナ禍でスポーツ活動自体が悪の様な雰囲気になり、学校からも習い事を控えて下さいとの雰囲気も実際に起きてます。
このコロナ渦で、わざわざ見学に来る親がいない。
そのような中で、学校の協力が得られず募集要項の配布などができない。
そのため、スポーツをやる子供が減っている。
コロナ渦での活動が厳しいのは十分承知しているが、あまりにも規制が厳しく、現在新たな入団の子供達を受け入れ出来る状態にない。
少年団としては体験会などで入部希望者を募り、団員を増やしたいが、練習時間も短く、全く融通のきかない状況が続いている。
多くの子供達を集めるのは確かにまだ厳しい状況なのかもしれないが、私がいる市では規制が厳しく、学校開放の運営も警備会社なのもありいまだ苦しい状況が続いている。
練習試合もままならい状況で今の子供達、これからの子供達への影響は人知れず大きいと感じている。
活動の自粛について (34)
この数年の子供たちは大変かわいそうだと感じています。
前みたいに何も考えないで楽しむ子供たちの笑顔が、みたいですね。
スポーツ少年団活動を一律で考えることはないと思います。
今後改善しても良いと考えます。
もう少し大会スケジュールや緩和の処置を柔軟に対応して頂きたいです。
コロナで子供がスポーツをする機会を止めないでほしい。
参加不参加は各家庭にまかせればよい。
コロナにおける活動自粛の緩和をお願い致します。
コロナ禍で子供たちは「マスクをして、声を出してはダメ」という固定観念が刷り込まれてしまっており、大会中止、交流中止でモチベーションも低下したままです。
コロナ禍で色々な制限があり思い切った練習が出来ず子供たちに元気が出ない。
スポ少が発布した規制が実際どれほど守られているのか。
病気になったらかわいそう、早く元気になってねという当然の優しい気持ちを子供たちに持ち続けてもらいたい。
もっと単位団の自主性や判断に任せる部分があってよい。干渉しすぎ！
スポーツ少年団の通達はあまりにも一方的、断定的な時があり、対応に苦労した。
活動を止めてしまうことにより、稽古期間が短くいざ大会出場となると、怪我の心配がある。
活動休止が突然通達されたりする事により、悲しさや悔しい想いをたくさんした子ども達に、中止ではなく、コロナや感染症と上手に付き合い活動できる環境を今後お願い致します。
活動時間や活動可能日をもっと自由に決めさせてほしい。
団員に感染者がなくても活動自粛や大会への参加辞退は納得いかない。
活動自粛、少子化、クラブチームの増加により少年団の団員数減少で団の存続が危うい少年団ならではの特約みたいな策があっていいのでは？
活動実施の可否の裁量を単位団に持たせて欲しい。
意見を聞かずに、上部の人が自己保身心理が働き、上部団体から必要以上に活動停止を指示された。
活動実施の可否は、各団において判断するため、県や市などのスポーツ少年団本部で活動の休止等は判断しないでほしい。
何の権利があって個々の活動を自粛させるのかまったく理解できない。
感染状況を各自で判断し、自団において感染が確認された場合は当然活動はしないわけだから、一律の活動自粛等は二度と実施しないでほしい。
感染者が増えたから自粛という単純な方法はやめてほしい。
県スポ少本部から、活動開始可能のメールが展開されても、市のスポ少事務局からは自粛と、学校施設解放にならなかった。
活動自粛しなさいと言うのなら、せめて県で統一の制限をして頂きたい！
子供達の限られた大事な時間を、活動を止めるのではなく、感染対策をしながら活動を続けるシステムができればいいと思います。(早く風邪やインフルエンザと同じような対応になればいいと思います。)
コロナ禍の活動は自粛要請にしないで、強制か各自の判断にすべき
活動の自粛は仕方がないと考えます。ただ活動の基盤はスポーツ少年団だけではなく、競技団体協会や、地方自治体など様々な関わりがあります。
昨今は第7波に突入とのこと。感染者拡大に伴い、再び活動自粛となることが懸念されるが、なるべく活動自粛の措置はさけて欲しいと願っている。
第6波の時も保護者からは活動自粛するより活動の継続を望む家庭が圧倒的に多かった。
団員の減少の一つとして小学校学区内外は子供だけの移動が制限されている為、保護者が送迎が必要でそれ故に平日夕方の送迎が困難で参加できないとの声が多い。
この辺をクリアしていける制度が必要だと思う。
子ども達への想い (34)
皆さま方のおかげで子どもたちもいきいきと安心して活動を行えていると思っています。
コロナウイルスがなくなるのを願い少年団活動の充実を図る。
これからも、団員の安全第一に活動して参ります。
コロナウイルス感染症が終息し、子供たちが負担を抱えることなく活動出来るようになることを切に願います。
コロナの影響で子供達の試合する機会が減っていることがとても悲しい

これから何年続くか分からない状況ですが、子ども達の想い出作りの為に努力します。
子供たちに、活動ができる時間を増やしてあげたいと思います。
これがいつまでも続くようなら少年団としては解散に追い込まれる事も懸念される。
もっと楽しく気軽にスポーツを！仲良く元気に柔道を!!☑
一日でも早くコロナ禍から解放されるよう祈ります！
何も考えずスポーツ活動できる幸せを取り戻したい。
なるべく早くコロナの終息を願っています。
子どもたちのためと運営努力をしていますが、コロナ禍での子どもたちの体力低下が著しいと感じます。
未来の子どもたちを救うには学校教育(文部科学省)では無理!!世界中でも少ないこのシステムを活用し、是非、未来を担う子どもたちを救ってほしい!!その一助を今も続けているが・・・。
将来がある子供だということを忘れて欲しくない。
全ての犠牲は子供に向いていると思います
児童が運動に接する機会が減少し、体力や運動能力が低下していることを感じる。
子供(選手)達にとって何が一番なのか、ということをお大前提に色々進めてもらいたいです。
子供たちがスポーツを楽しめる環境づくりが急務だと思います。
理解ある保護者ばかりではありませんが、子ども達の発達過程において身体を動かす事、心の成長をこれからも見守っていただければと思います。
子ども達の笑顔が今後も増える様な活動を心がけ、子ども第1に考えて行動して行こうとおもっております。
子どもが子どもとして居られる極わずかな期間の3年弱の時間を、人と関わることを制限され続けている子どもたちの未来を憂いている。
大人の都合で子供たちが苦しむ姿を見たくありません。
どこかの報道で 勝利者主義が悪い ので 止めていく方向で検討している と言うような報道がありました(?)
とんでもない話だと思います。内容も 知らされる順番も。
子どもの交通事故、熱中症、子どもの虐待や子どもの自殺などのリスクも子ども達を取り巻くリスクの一つです。
そのリスクの一つにコロナウイルス感染症があります。
子供にとって精神的にも体力的にも悪影響でしかない。
このままではスポーツをする事が学校以外では無くなるのでは無いかと思っています。
ここ2年での体力テストの結果も明らかにさがってます。なんとかしないといるんな所に影響してくると思います。
実態把握のためにはもう少し質問の内容に工夫が必要と思われる。
子供たちがのびのびとスポーツに取り組むという雰囲気はなく、このままでは、スポ少活動はもとより、スポーツ全体の底上げに多大な影響を及ぼすと思います。
昔からある地域スポーツを下支えしてきた少年団がどんどんなくなっている。
8月から入団しても大会に参加できない子供達が出てしまいます。
要望について(32)
アンケートの結果を今後どう活かすのか、具体的にご教示頂ければと思います。
エリアにおける異種交流会をやりたい
コロナ禍において、スポーツ少年団全体への規制の場合もあることは理解しているが、活動種目によって規制内容を変えるなど、状況に合わせて柔軟な対応をお願いしたい。
もっと大会や交流試合を増やしてほしい。
スポーツ少年団の募集チラシを小学校で配ってほしい。配ってこない。
少年団の公認リーダーは除外してほしい。
スポーツ少年団主催の大会参加資格は、登録後に途中で入団したものも参加できるような配慮がほしいと思います。
スポーツ少年団登録を以前みたいに団員登録を10人以下、指導者資格保持者を1人でも登録できるようにしてほしい。
スポ少は、コロナ禍でもスポーツができる方法を前向きに検討できる団体であってほしい。
話は戻りますが、柔軟に状況に合わせた判断が出来る姿勢をトップの日本スポーツ少年団が示して欲しいと願っています。
テレビでもっとバレーボールの放送をしてほしい。
長い歴史のなかでスポーツ少年団を運営してきた自負をもって、事なかれ主義の政府や専門家とは一線を画した科学的な見地にたった運営を行って欲しい。
コロナウイルス感染症だけに焦点を当てるのではなく、他のリスクも含め科学的見地にたった運営をおこなっていただけることを切に望みます。
海外のスポーツ少年団体のコロナ感染対策を知りたいです。
学校のクラスにコロナ感染者がいた場合の同じクラスの団員(濃厚接触者ではない)や団のガイドラインを示して欲しい
大会の参加基準などもっと具体的に明確にして欲しい。(団員の兄弟のクラスでコロナが出たがPCR検査をして陰性ならば大会に出ていいのか、など)
学校を通じて保護者の方や子供達に広められるような環境を作ってほしい。
夏場の熱中症警戒アラート発令中でも団活動の制限の強制力が無い為感染症対策をした中では団員の体調を管理が難しく市町村単位でのアナウンスがあれば助かります。
緊急事態宣言等は西暦表示でガイドラインというは和暦で表示記載となっており、どれが最新なのかすぐにわからないため、年号についてはすべて西暦で統一したほうがわかりやすくなると思います、
感染予防対策は重要だと思うが、現状にあったガイドラインの作成をお願いしたい。(現在はハンドドライヤーの使用も可能になったのでは?)

練習時間の制限などどこからの通達か？いまいち不明であるので、末端までわかるようにして欲しい。（私がわかっていないだけかもしれませんが…。）
今まで、感染者の増大で緊急事態蔓延防止法蔓延防止法施設の利用制限を度々受けたが、今度は「団体の人数や利用状況」を考えて行って欲しいと感じます。
例えば、活動人員が10人以下なのに広い施設での活動を制限するのはおかしいと思います。
若年者にとっては重篤化する病気でないことは明らか。過度な対策はいち早く見直し、インフルエンザ同等の対応としてもらいたい。
人数(在籍)に応じて調整して欲しい！
新しいスポーツテストの講習会を指導者対象で行ってほしい。
部活動改革についてアンケートを取って欲しいし要望も聞いて欲しい。
コロナに関係したことでないが、種目に「フットサル」の番号を付けてもらいたい。
感染症5類への引き下げに働きかけてください。
通知内容が保護者によっては分かりにくいことがあるので、端的にまとめたイラスト付きなどの保護者や団員向け資料があると大変助かります
小学生の時期までは、チャンピオンシップからコミュニティシップに切り替わる取り組みを各種目団体が取れる体制を作るよう切に願います。
議論の結果だけ伝えられるのではなく、議論の今時点での経過を末端の段まで伝わる努力を望みます。
団活動運営の負担増について（31）
団員も減少し団運営も厳しく保護者の負担も大変になっているのです。
そんな中での会費等の負担は重荷にななと思いますがいかがでしょうか。
毎年運営面で苦勞している団も多いと思うので、運営に携わってくれる「ありがたい指導者や保護者」の負担が軽くなる体制を望む。（世間のスポ少離れの一因ではないか？）
理念は崇高だと思うが、多忙な指導者・保護者にさらに負担をかけるシステムだ。
毎年スポ少登録の手続きは（変更が多く確認のやりとりも多岐にわたるため）休日を丸一日費やしている。
自治体ごとにやり方が異なると思いますが、会計的な課題として、スポーツ少年団の運営資金を会費だけで賄えない現状があり、スポンサーからの支援金と、自治体補助事業による補助金との相反性について、明確なガイドラインがあれば、お示し下さい。
クラウドファンディングなどで、収益確保されている事業も出てきており、検討したいと思いますので、ご教示ください。
感染防止対策に係る物品（消毒液、抗原検査キット等）の購入費用の助成を検討していただきたい。
また指導者による資格の習得条件など、意味は大変理解できるのですが、反面、手間が増えることに対する抵抗感があり、指導者を増やしくなっております。
今後、中学校の部活を地域スポーツクラブに移行するにあたり、責任の拡大や運営費不足が考えられ、クラブを維持していくことが難しくなるのではないかと危惧しております。
コロナ禍で加速した団員の減少や活動資金の不足、指導者のなりての不足など苦勞している単位団の見殺し状態を目の当たりにしボランティアの限界、少年団の限界を感じている
コロナがあるうが無かるうが、限られた人材で時間・場所・運営等をやりくりするのは大変です。
感染対策備品や情報通信機器等、毎月数千円の団費で団員減少の中、団運営費だけでは支出することが厳しい。
スポーツ少年団の活動が少ない その割にはお金がかかりすぎる
団員数が少なく父母会費が集まらない。
助成金をまたやって欲しい。
助成金ではなく、各スポーツ少年団に所属する子供たちの育成の活動支援金として援助願いたい。
運営が大変になりました。単位団への補助金や全国大会参加補助金などをお願いしたい。
2週間前チェックシート等負担になっているので緩和出来る所はしてもらいたい。
従来開催されていたスポーツ少年団事業が中止される中で、毎年登録を行い登録料も支払っている。
スポーツ少年団関係で国のコロナ補助金制度を受けられていない団体に希望します。
コロナ発生初期にあった、団体に対する補助をもう一度実施してほしい。
補助申請についても簡潔にしてほしい。
運営もボランティアであるため複雑なものであればあるほど、申請が遠のきます。
当スポ少はスタートコーチ資格をなるべく多くの保護者に部費負担で取得してもらっていますが、いずれ更新の際に費用がかかりますので、指導者人数が多い単位団は減免措置があると大変助かります。
市の施設のみで優先的に活動できれば、もっと負担は減る。
以前スポーツ庁でコロナの影響で活動ができない等の対策として改善にあたり助成金を補助するとあった。
子供達の体調把握が困難です。
スポ少のイベントが無くなって、登録料の減免が無く、何が必要経費として使用されているのか、決算資料が配布されませんので、確認できません。
スポーツ少年団の団体登録又は通知等で、締め切り期限が短い
その他となれば、大会等の補助金がもらえない。
スポーツ少年団事務局、都道府県本部への不満（30）
このアンケートに限らないが、スポ少各種手続きの煩雑さ（不要だと思われる文書が入る、一つ一つに時間がかかる）に憤っている。
コロナという突発的な事があり、我々も環境に合わせた変化しましたが、スポーツ少年団としては何か変わられたことはありますか？
ガイドラインは長すぎて読む気がおきない。ポイントだけを絞って書いてほしい。
この調査内容とは別に、中学校の部活動の消滅後の対応、特にスポーツ少年団の為すべき役割等について調査してほしい。
また、スポ少の県団体の通知等について、非常に不満がある。本年度については登録したが、次年度以降については白紙である。

スポーツ少年団本部の工夫や活動を再構築して頂きたい
スポ少で毎年年度初めに当たるワッペンが使わないので無駄です他の予算に使った方がいいと思います。
スポーツ少年団の役員、仕事が、令和の時代とミスマッチしている所にコロナさん。
毎年団員登録後に頂く、、 どうしたら、良いかわからないトロフィーに付けるようなリボンと布の団員賞。
子ども達からは、ハッキリいらない。と言われ毎年、即ゴミ箱に行きます。
登録料は、もっと生きたお金になる事をただただ願うばかりです。
中央団体の支援をもう少しいただければありがたいです（活動アピールの場の確保、交流の機会など）
スポーツ少年団(スポーツ少年団協会)の必要性重要性を感じました。
スポーツ少年団のアンケートには回答しましたが、コロナ禍とスポーツ少年団の関連性については、まったく期待がありません。
スポーツ少年団の組織運営がよくわからない。
感染防止だけを唱えるのではなく、子供たちの笑顔を取り戻すには何が必要かを考えていただきたいです。
連絡等が遅すぎる。
日本スポーツ少年団からの情報提供は少なくタイムリーでもない。
日本スポーツ少年団が様々な改革に取り組んでいることは承知しているし趣旨も理解できる部分もあるが、単位団の負担は増すばかりで資金集めの印象を持つ。
この改革で多くの単位団が抜けていくことは容易に想像できる。
しかしこのことを日本スポーツ少年団はついてこれないならしかたないぐらいにしか思っていないように感じる。
スポ少を立ち上げたい指導者がいたが、団員10人必要という壁に断念した。団員減少の理由の一つではないか？
スポ少活動が単位団体で20名以上じゃないと認めないというような方向は如何なものか！
これから少子化で単位団体の維持すらできなくなる。
タテ割り行政の弊害を感じます。
例えば新規にスポーツ少年団を設立する場合、地元市学童8人＋市外学童2人では申請出来ません。
スポ少からの各資料の配布部数が多すぎると思います。
アンケートばかりで、この二年何も変わらない。
上の方が何を言っても(今回ですと日本スポーツ少年団)結局、末端は(市スポ少)自力で工夫してやっていかないといけない、という現実。
ただ計画した事業を中止するだけで、コロナ禍でもできる新たな取組等が見えて来ない。
登録のメリットについて（29）
スポーツ協会の入会意義は何ですか？
例：市立小学校はスポーツ少年団登録しなくても使用できる？とある営利目的に設立した団体が過去の経緯のまま、スポーツ少年団登録をせずに使用している。
我々はスポーツ少年団登録が市立小学校を使用できる前提だと考えてます。
スポーツ少年団に加盟している団体の、活動場所として公共施設等の使用について、優先順位が有ってもいいのではないと思います。
スポーツ少年団に登録しているメリットをあまり感じておらず、今後の登録の要否についても検討が必要ではないかと思っている。
登録しているメリットを出してほしい。
スポーツ少年団に登録しているメリット感が何もない
スポーツ少年団に入っているメリットが殆どなく、各競技に於いてスポーツ少年団に加入しなくなるチームが増えている。
これを打開する方法がないか、検討してもらいたい。(クラブチームであっても県・全国大会への参加が可能な競技が多く、スポーツ少年団に加入している為に、練習及び試合が出来ない事が、多かったため)
スポーツ少年団の存在意義がなくなっている。
スポーツ少年団だけの全国大会、少年団だけのトレセンがないと、少年団はなくなる。
スポーツ少年団の方向性が判らない。
登録費用だけは毎年支払い、施設利用等のメリットもほとんどなく、学校側の理解も全くないです。
だから東京都の小学生バレーボールチームはほとんど加盟していません。
たぶんこの現状は変えられないでしょう。
東京都のバレーボールはたったの8団体です。
団加入へのメリットは交流大会以外では地域では感じにくいのが実態だ。地域での活動だけであれば加盟しなくても十分やっていけるとの声もある。
今期、少年団登録を悩みました、少年団の意義を感じません
各種目の競技団体組織のガバナンスが強化されてきたことで相対的にスポ少の存在意義は小さくなってきたと感じる。(そうでない競技団体もまだまだあるが)
入っている子どもたちにとって、スポーツ少年団に入っていることの、メリット、必要性を感じにくい状況です。保護者も同様です。
体育館の確保のために少年団へ加入しています。
小学生バレーボールにおいてスポーツ少年団への加入をすることによってのメリットはなんですか？ スポ小の大会に参加可能なだけでしょうか？
少年団の存在意義がこのコロナ禍で一気に薄れてきた。
少年団体の活動を限られた活動費を徴収して運営して行く中で、選手登録費用、チーム登録費用、指導者ライセンスなどの出費ばかりで何のメリットもないと思われ ます。

公共の施設開放、イベントのバックアップ、登録費、指導者ライセンスの無償化などチームにとってプラスになる協会であって欲しいと思います。
残念ながら、スポーツ少年団に登録するメリットを保護者の方に説明しにくく、理解を得られ難い状況です。
もっと気軽に（施設充実・費用負担の軽減）子供達を中心とした地域スポーツが活性化され誰でも簡単にスポーツ出来る環境が出来る事を期待しております。
スポーツ少年団は大会がなくなれば加盟している意味を感じません。
もう少しお金をかけて登録している意義を感じさせてほしいです。
施設（活動場所）の確保について（24）
上記にも記載されていましたが、同じ時間帯で他団体との練習環境に不満です。
開会式の行進、選手宣誓を団員に経験させてあげたい。
活動場所が放課後児童クラブが優先的に使用しているため、今まで休憩を入れながらゆとりを持って指導していた時間が確保できなくなってしまい、練習内容が限られるため子供の個別の指導に対応できない現状に不安を持っています。
活動場所の確保
活動場所（学校開放施設）の利用制限を緩和して欲しい。
活動場所が、公共施設のために活動制限が著しく大変である。
活動するにあたって自前の施設を持つことが非常に重要だと感じている。
公営のプールを使用しているため（他に使用できる施設は無い）、施設が閉鎖になると自動的に活動が出来なくなる。
少年団の判断よりも施設側の判断に従わざるを得ない。
学校施設は体育館の貸し渋りも起きています。
子供たちのために、大会などの活動をできるだけやらせてあげたいと常に思っています。
今ある団を潰さずに、合同で公式戦に出ることが許される等、弾力的な対応が可能になることを望みます。
大会は目標であり目的ではないが、なくなれば間違いなく団登録は減少すると感じる。
不当な理由で体育館を使用させてくれません。
大会は地区大会のみにし、試合数多くする、全国大会などは廃止した方が良いと思います。
やっと大会も昨年後半から再開されました。
当団は、教育委員会からの通達(指示文書)を根拠に学校体育施設の使用可否によりクラブの活動・休止を判断しています。
特にはありませんが、コロナ禍でも活動場所が有る事に感謝しています。
練習会場が使用できなくなるのが最大の問題。
バレーボールは、混合のチームが増えているが、県大会などに、男子と女子だけで、混合チームの参加枠が無いので、混合の参加枠を作って欲しい。
できる範囲の大会開催を感謝しております。今後も子供たちの活躍の場を確保してください。
学校施設を借りるのに在校生徒が7割いないとダメとか人数が9人未満は団体と認めないなど施設が借りられない状況になっています。
相変わらず、少年団として登録しても、優先的に使えるスポーツ施設が存在しない。
多種目のスポーツ少年団にする等の工夫をしないと、平等に公共施設の利用は出来ません。
感染対策への対応（24）
これまで団活動(軟式野球)からの感染者はでていません。大会においても同様です。
コロナからの活動許可が出てすぐに大会が組まれており、子供の怪我が多く発生。
感染対策はしっかりやっている。
コロナを体育館に持ち込ませない意識を基本に据えて活動を継続しており、団員及び保護者など体調不良があれば積極的に休みを取ることを推奨しています。
コロナ禍が続く中、経済活動を鈍らせない動きもあり各種大会も開催され始めていますが、いざコロナ感染者が出た場合の対応が協議されないまま行われているものもあり、勝ち進んでも棄権を余儀なくされたり直前まで対応が二転三転したりする場面がありました。
コロナ禍で、活動を中止しなければならないことがとてもつらい期間でしたが、指導者もICTの取入れや活動環境などを見直す良い機会となりました。
悪いことばかりではなかったようにも思います。少年団というくくりの中で、その都度現状を見ながら活動するために、できる範囲での活動やトラブルに対しての対応など、いち早い情報やお知恵をいただきながら今後も進めていきたいと思っています。
コロナ禍の中でも何とか活動を継続できるように努力をしています。
それでも新しい生活様式をくまなく取り入れて子供たちが安心して身体を動かせるようにスタッフ一同努めて参りたいと思います。
コロナ予防に関しては皆さん手探りで行き最近は少し変わってきた様です。
現在は、辛くとも感染防止第一に、ルール遵守で活動しております。
知識、スキル向上できている。
サッカーのライセンスはポイント制となっているため毎年講習会に参加できている。
大変な時期ですが、工夫を凝らして少ないですが頑張らせています。
難しい状況ではありますが、活動を継続してまいりたいと考えております。
又コロナ感染者が増加していますが、剣道は室内競技の中でも、特にマスク着用・シールド着用をそのまま継続し手の消毒・室内換気も今まで通り行い、剣道場からコロナが出ない様に努力します。
コロナのリスクと活動を通して得られる体験とのバランス
ある意味、保護者の判断に左右されるケースもあるようだ。
コロナ禍前の活動を知らない保護者が多くなり、活動再開に苦労している。

活動団体でコロナガイドライン作成してそれに沿って活動している
感染しても重症化するリスクはU 12の子供たちにはないという話がある。
剣道は全日本剣道連盟からのガイドラインを遵守して活動を行っております。
剣道独自のガイドラインにてコロナ対応しているので日本スポーツ協会のガイドラインは把握していません。
不特定多数の関係者が出入りするわけではなく管理した体制で行っています（今のところ、武漢ウイルス国際変異株の感染者は出ていません。）。
今後の活動への不安について（18）
コロナで親の会の引き継ぎも、以前の活動を知らない親が多くなっている。
子供達も楽しみにしている激励会などの、練習以外のイベントが開催できず、団結力やモチベーションが下がっていると思います。
大事な大会前にコロナに感染し、主力が抜けたまま試合に臨まなければならないチームが、何校もありました。
そのような恐怖心を抱えたまま練習しなければならない子供達が、とても不憫でなりません。
コロナ禍での活動をどうさせるべきか判断に迷うとは思いますが、引き続き宜しくお願い致します。
これ以上、感染者数が増えれば、やはり活動を自粛しないといけないのか？
そうだと、また団員が辞めてしまうのではないかと不安です。
コロナウイルスの怖さを他人事ととらえている人が増えた。
子供たちその家族の幸せを考えると、うつきない行動をしていただきたい。
コロナでスポーツに参加することをためらう保護者が増えた。
指導者が感染を気にしていないのではないか？と思う対応が多々ある。
コロナ禍というより子供の減少と人気のないスポーツで今後団の存続に危機を感じています。（子供の人数に対して部活動の選択肢がたくさんある。）
コロナ陽性者発生時の対応、判断に大変苦しんでいます。
収束してないので油断出来ない状態です。
近年スポーツをさせる親が少なくなっています。
数年後の状況が怖いくらいに感じます。運動の差別化が想像以上に出ている。ものすごく日本の将来が不安になるほどです。
今後スポーツ活動以外でも子供たちの育成・体力低下が最も心配です。やはり日頃から少しでも体を動かし、人とコミュニケーションを取れる様な環境が必要だと思います。
感染拡大と必要以上に世間を煽ることを続けていると今の世の中になってしまうことに恐怖を感じた。
マスクの対応について（16）
マスクが感染予防効果が無い事は、世界中の論文で明らかになっている。
そのために世界中でマスクの義務が無くなっているのに、何故日本ではマスクに感染予防効果があると今だ思われているのか不思議でならない。
感染予防効果があるなら教えて欲しい。
マスクをして剣道を行う事は熱中症、脱水等の危険性が高く稽古時間を短く区切り、何度も給水時間を確保し、一人一人の顔色を確認しつつ行っています。
マスク着用を推奨するガイドラインには根拠がないので、国からの情報を鵜呑みにした対策をさせるのではなく、マスク着用によるデメリットも考慮し未来を担う子供たちの健康のためにも、マスクが正義のこの風潮をマスクは個々の自由というように、スポーツ少年団から変えていただきたいと思います。
夏場の活動において子供達にマスクをさせるリスクの大きさをもう少し真面目に考えて欲しい。
脱マスクの必要性を積極的に発信して欲しい
スポーツ中はマスクやめたい。
国や県から2メートル以上の距離が確保できる場合はマスクは外してもいいとなっていますが外すタイミングがわかりません。
プレー中は外しベンチ内では着用しているのですが、夏場になってくると休憩時間を多めにとるためベンチにいる時間が長くなります。
熱中症の危険もありどうしたらいいのか悩んでいます。
今の時期、感染予防と熱中症対策の基準が難しい
屋内(体育館)で接触もある協議でも早々にマスクを外して練習・試合等のプレーをしており、日本スポーツ協会のガイドラインからすればマスク等をしない指針と矛盾して困っているのですが、コロナが流行した最初の頃に剣道でのクラスター報道があり、世間の批判を気にしているのしか思えません。
その辺りの踏み込んだ指針・指導・是正をお願いします。
マスク着用で感染拡大が予防できない説が有力と感がある人が異常に少ない ワクチン接種が子供達にとってリスクが高いという話も出てこない。
剣道(全日本剣道連盟)は、未だ防具装着時のマスクと面シールドの着用を義務付けています。
感謝について（8）
いろいろな価値観があり、方針を出すのは難しいのではないかと思います。
2年間に渡り、試行錯誤して下さり、ありがとうございます。
うちの少年団は、保護者の理解があり、練習をぜひやって下さいと言う意見が多いです。
おかげさまでコロナ禍においても団員の減少はありません。
また新しいスポーツ活動のあり方への気付きもあり、日々学びを深めています。
コロナ禍で日々の変化がある中、活動を支えて頂きありがとうございます
市スポーツ少年団 本部役員の方々に感謝いたします。
スポーツ少年団事業に心から感謝しています。

大人たちの保身（都合）（7）
日本全体のどの協会レベルも結局保身で動いていることが如実となった
子どもたちの健全な育成を手助けするのが少年団のあるべき姿と思いますが、肝心の子どもたちのことは他所に置き、保身重きの対策ばかりに走るのはいかがなものかと。
しかし既存の少年団組織の役員が自分たちの既得権を主張するばかりで、発展性がないと思われる。
大人メインで考えているため。
節度無い大人が責任を取らず、少年だけでなく中学生、高校生まで活動の機会が奪われてしまったことに対して反省し、今後まず大人が制限を受け、子供の制限を後にすることを願う。
中止は簡単、大人の保守の為の中止は避けていただきたい。
他団体との交流が一切ない、また、子供たちを喜ばせる活動がされていない、大人中心で子供たちの声が反映されていないのが残念です。
コロナ終息への願い（3）
コロナの終息が早く来ることを期待。
1日も早く、コロナ禍前のような通常の活動が出来るようになるよう、心から願っております。
早くコロナを気にせず活動できる世の中になりますように。
その他（30）
コロナ過で学校が休校が続ぎ、子供達の運動不足解消にドッジボールを親子で遊び、入団者が増えています。
今後も次の「波」が必ず訪れるでしょう。
昨今の体罰、暴言などコンプライアンス違反をなくすためには、全国大会を中止にする方針には賛同する。
スポーツ少年団の他に各競技団体に登録しているチームが多い。
今後ミニバスではスポーツ少年団の大会見送る傾向が増える。
すでに東京はスポーツ少年団に登録しないチームの方が多い。
資格を持っていても指導者として適していない大人もいる。
他の指導者資格と同じ内容に思えるが共通性がない。
社会の生活圏は、昔と違って広範囲ですし県境又は市境の地域は、隣の県や市が近い場合があります。
学校からコロナ感染状況などの情報共有が一切ないので感染状況把握に困る
学校関係の感染リスクが高いため滞在時間の観点から団活動中止は必要
運動の必要性、スポーツの素晴らしさを我々が広めるには限界があります。
また地域性もありますが、小学校の部活廃止により、そのていかは加速していると感じます。
行政も大変ではありますが、やれる方法を探りながら今後も対応をお願いしたいと思います。
今後は、少年団活動と総合型地域スポーツクラブ活動がすり合わせをする時代になってきたのではないかと思います。
こんなことでは、少年団活動は衰退していくと思われるので、私たちは総合型地域スポーツクラブに移行することを模索しています。
近年は保護者との連携が上手く出来るかどうかのポイントに成ってきており、コロナ渦の活動の在り方も基本は地域行政の要請には成りますが、それに加えて保護者のご意見も何う事に成ります。
新型コロナ感染対策中に団員が増加した。
勝利主義を排除するには、全国大会の持ち方や申込(バレー身長記入等)の改善が必須。大きな強みのリーダー会の特典というか、英検や珠算のような全国レベルの資格を付加価値として与えないと、指導者への育成どころか、ジュニアリーダーからシニアで激減！！進学や就職に少しでも+になる資格を考えてほしい。
手っ取り早くタレントを活用すれば・・・。ACPを起爆剤と思っていたが、発信源の岐阜ではACPという言葉すらでない。
もったいない。昔は子どもの貧困は当たり前、しかし、心や体力まで【貧困】ではなかった。
それは、地域での遊びやスポーツ少年団活動があったことも要因。
少子高齢化社会になっていること。
制限中はかなり厳しく練習もできず困りましたが 再開するとみんな嬉しそうにほとんどが練習参加してくれました。
昇級審査に参加できず困ったこともありましたが 今のところ団員からの感染者は出ておらず 今後もコロナ対策をしながら 練習や他の大会にも参加したいと思っております
全国大会開催の可否が議論されているとの報道がある。
全国的に感染者が増加傾向だが、感染症分類も第2 壘から第5類相当へ移行すべきである。
当市は「スポーツ都市宣言」をしているが、なにに対してなのかいつも疑問を感じる。
低学年のコロナに対する指導の徹底ができなかつた
役員スタッフが年度で変わるのでコロナ対策の詳しい引き継ぎがなされていませんでした。